

**【参考資料】 第65回研究大会のまとめと反省**  
**(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)**

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について  
 会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について  
 日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題  
 △…提案

**<国語部会>**

**I**

[新川地区]

- 文章を説得力の有無や結論とのつながり等を考えながら読むことで、「ただ理解する」のではなく、自身の考えと比較しながら批判的に読んだり自分の立場を明確にしたりすることができていた。
- 一学期より取り組んでこられた三色(三角)ロジックをもとにした批判的読みの指導は、とても効果的だと感じた。
- 研究大会当日は、タブレットPCの不具合によりteamsが使えなかったため、ホワイトボード(黒板)に意見を集約していくICTを使わない授業になった。しかし、随所に話し合い活動(ペア・4人組)や一人読み(一人で指定された部分を音読し直すこと)を入れることで、思考を放棄できない状況を作って最後まで全員参加させていた。
- 批評しあう態度がみられた。二つの人工知能について、二項対立をとっているわけではなく、論の方向性としては同じなので、話し合いの際、混乱が生じているようにも思われた。

[富山地区]

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、体育館で授業を行い、当日の参加者を限定した。そのため、部会協議のグループワークでは、一人一人の意見をしっかりと述べ合うことができた。
- クロムブックを活用してプレゼンテーションを行うために、TVモニターを3台使用した。2グループに1台TVモニターを使うなど、ICT機器が有効に活用されていた。
- タブレットPCを用いた授業のあり方について、提案があったことは今日的で重要であった。今後、工夫改善のための議論がなされるべき分野だと考える。

[高岡地区]

- コロナ禍の対応とはいえ、学校から代表1名等での参加で実施することは、かえって協議会等が活性化してよいと感じる面もあった。部会協議②は「現在の悩み」ということで、どの年代の方も発言しやすかったと思われる。
- 射水市では、指導案の共有だけでなく、部長が協議会や当日の様子を概略的に国語科教員に伝え、協議会記録も共有した。
- 詩の内容についてだけに言及せず、形式面から捉えていった学習内容に工夫を感じた。七五調、五七調と比較することで、リズムと詩の内容との結び付きを考えることができていたのではない。
- 生徒にとって身近な「校歌」を用いて音読を繰り返し、リズムの違いを比較したのは、有効であった。
- 部会協議②は、評価に関する討議であった。「主体的に学習に取り組む態度」について、信頼性のある評価方法を共有することができた。
- 参加できなかった教員への成果の共有方法(還元方法)を十分に考える必要がある。

[砺波地区]

- タブレットPCの即時性、一覧性を生かした活動となっており、生徒同士の意見交換を活性化させるために効果的に活用されていた。生徒の聞きたいという学習意欲を刺激していた。
- 「恋とは○○である」という短い言葉で表現させてから、文章にまとめさせるというスモールステップでの展開によって、どの生徒にとっても取り組みやすい活動となるような手立てがなされていた。
- ペアやグループでの意見交流を通して考えに変容が生まれた生徒がおり、言葉・表現の細部にまでこだわっている姿から言語に対する自覚が高まっていると感じた。
- 密になることを避け、教室ではなく、開放感のあるスペースで授業を行った。リモートではなく実際の授業を見ることで、生徒の反応や雰囲気を感じ取りやすかった。
- 協議会では小矢部・砺波・南砺の3市のバランスや経験年数を考慮したグループでの討議を行った。3～4名という人数のため、若手の先生も発言しやすく、活発な協議ができた。
- アドバイザーの講義が中止となったことで、受付開始時刻40分遅らせた。移動や準備の時間が確保でき、余裕をもって研修会に臨めた。また、協議会の時間を50分(指導助言含む)から「60分+指導助言20分」にした。時間的にも内容的にも充実した。

- 部会協議は付箋を用いて3～4人のグループで行う形式だった。全員が発言できることや、成果や課題についてより焦点化して協議できることなどがよかった。グループの構成も経験年数や勤務地等のバランスが考えられていた。

## II

### [新川地区]

△タブレットPCが不具合により使用できなかったが十分に話し合いが展開できた。しかし、より全員の理解を深めたり、全員参加させたりするためにはタブレットPCを使用しない方がよかったのではないか。

- 協議会では、国語科におけるICT活用例を持ち寄り発表した。多くの学校が、接続の不具合により満足に使用できないと報告していた。ネット環境、タイピング能力、表計算ソフトの使い方等、使用以前の問題があると分かった。また、ICTを活用するための学習となっではいけないと感じた。
- ICTの環境があまりにも整備されてない。研究校に限らず多くの学校で、充電ができない、回線が脆弱すぎて落ちる等、最低限の設備が整っていない、という現状がある。

### [富山地区]

●体育館という広い空間であったため、生徒の声が小さく感じられた。研究授業という観点で言えば、普通教室（もしくは特別教室）で授業を行うとよい。（密を回避するためには、隣の教室でライブ中継を見るなどの工夫が必要）

- ICT機器の活用と「話し合い」の両立が課題である。
- プレゼンテーション作成にだけ学習活動が偏ることなく、単元の目標を達成するために授業の中で目標を繰り返し確認しながら進める必要がある。
- 参加者を限定した場合、当日の研修内容をどのようにして部員に広めるか課題である。

△事前の指導案検討は、授業者の負担をなるべく軽減する方法で行われる必要がある。

### [高岡地区]

△本来の全員参加型に戻った際の部会の持ち方（進行・グループ分け等）

- 時配と単元構想を精査する必要がある。本時であれば、全体を2時間計画とし、1時間目を内容、2時間目を形式の学習とした方がより深い理解につながったのではないか。また、音読の回数を増やし、追い読みで七五調のリズムに慣れさせると、生徒自身で語調の違いに気付くことができたとされる。
- 校歌を七・五調の詩として捉えるのは難しい。「歌詞」は「詩」とは異なるのではないか。「詩」から提示するとよい。

△「音読して感じたことを書く」ではなく、リズムに着目するような問いにする。

### [砺波地区]

○教師側が「何を考えさせたかったのか」「何に気づかせたかったのか」を明確にした上で、和歌と生徒の短歌を比較する観点を示すことで、話し合いに深まりが期待できた。

○最後の発表の場面では、発表させた生徒への価値づけをすることで、本時で教師がねらっていた学びを発表者以外の生徒にも気づかせることができた。

●古典和歌と創作短歌の比較という前半の活動が、「恋」について自分の考えを書くという後半の活動につながるよう、比較の観点を示すことや自分の考えの根拠として和歌・短歌の内容にふれさせることができればよい。

●終末のまとめる活動では、教師が求めるB規準を明確にする必要がある。評価について、どこまでできればB規準なのかを教師が常に意識しておく。

●必要のないときにタブレットを見たり触ったりしないルールの確立が必要である。

●タブレットの一覧性や即時性をさらに有効に活用する方法として、子ども同士聞きたい人のところへ自由に聞きに行かせるという活動も考えられた。

●新しい学習指導要領に沿った、指導案の書き方。

## III（1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付）

### [新川地区]

3 ●郡での集まりはすぐに行えるが、郡市を越えての研修会はコロナ禍ということもあり難しい。

3 △事前の打ち合わせ等がほとんどなく、会場校や同郡市の先生方に多大な負担がかかっていたと思われる。集まることができなくてもリモート等で打ち合わせを行い、分担できればよいと考える。

4 ●指導案完成が提出締め切り間際で、集まって製本することができなかった。100部より少なければ一人でもできるが、負担が大きい。改善のため指導案完成の締め切り（データ送付）と冊子の送付締め切り日は分けてほしい。

4 ○コロナ禍でなかりと、出張等の負担軽減のため製本は今後も各校にお任せするのでよい。

[富山地区]

- 3 △コロナ禍にあって事前研修会の開催については判断の難しいところがあった。今回はメールや電話のやりとりで指導案等の検討を行ったが、異なる視点から繰り返し修正依頼があったことで、結果的に授業者の負担を増やしてしまった面があった。幹事同士が共通理解した上で修正内容を吟味し、授業者に依頼をすることが、今後は望ましい。あるいは、感染対策を講じた上で、幹事会を開くことも一つの方法であると思う。
- 4 ○今後も資料データを各校で印刷する方法でよい。
- 4 ●当日の参加者を決定するのに関して、やや混乱が生じた。(運営委員に加え、幹事をどれだけ呼ぶのか。)

[高岡地区]

- 2 ○地区研究会をしなくても、今年度は十分に本大会を実施することができた。打合せが必要な場面もあったが、メールや電話、C4th等で十分行うことができた。
- 3 △データ送信となり、部会責任者に渡された研究大会費には資料作成費が7,000円も計上されていたが、使い切れないのが現状である。研究大会費を節約してはどうか。
- 4 ○研究資料は、本年度のように、各郡市、各学校へのデータ送信の方が効率がよい。紙ベースで配布となると、印刷や製本にかかる費用や担当者の手間、出張が必要となる。
- 4 ○学習指導案を各学校で印刷する方法は製本の時間が省けるので、続けてほしい。
- 4 ○データ配付になると、人によってはペーパーレスでも参観できるのでよい。
- 4 ●事前の打合せができず、会場郡市と会場にはご負担をおかけしたと思われる。また、部会がどのように進められるか事前に分からなかった。打合せを行わない場合は、必要事項の伝達があればよい。
- 4 ●事務局に3部大会資料を届けたが、総教セの参加者から、当日会場で資料をもらえないかと問い合わせがあった。総教セに資料は届いていたのか。

[砺波地区]

- 2 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、部会責任者と会場校責任者だけでも集まればよかった。
  - 3 △事前研修会の持ち方について等、次の部長に確実に引き継げるようにするとよい。
  - 4 ○資料のデータを各校に配布し、印刷する方法が効率的でよかった。
  - 4 ●データでの発送は、製本の手間が省けて便利である。一方で、運営委員が集まって、会場確認したり、打ち合わせたりする機会がなく、部会責任者の負担が大きい。
- IV (1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

[新川地区]

- 2 ●参観者用に椅子が設置してあり、授業時に生徒の様子を見に立ち歩いてもよいのか不明瞭だったため、生徒の活動の様子をあまり見ることができなかった。事前に周知していただければよかった。
- 4 ●部会協議では授業発表の内容よりもICT機器の実践報告に重きを置かれたのが残念だった。実践された授業について知見を深めるためにも、意見を交流する場面があってもよかった。
- 4 ●集合時間が伝わっていない先生がいたり、研究協議で授業担当の先生にフィードバックする機会が少なかつたりした。

[富山地区]

- 1 ○コロナ禍にあって対応に苦慮されたことと思う。制限された状況の中で工夫が見られる運営であった。
- 1 ●マイクの音声が体育館に反響して言葉が聞き取りにくく、対話が難しい面があった。発言者は一方的に話すのではなく、聴いている部員への配慮が必要である。
- 2 ○生徒がジャムボード、グーグルスライド等を用いて、地図や写真等を効果的に用いたプレゼンテーション資料を作成したり、各班の発表の改善点等を提案したりしていた。
- 2 ●生徒同士が対話する場面を、授業の中に位置づける必要がある。
- 2 ●タブレットPCを用いて録画した各班のプレゼンテーションの動画を活用し、より質の高い発表のあり方について検討する場面が必要である。
- 2 ●「質の高いプレゼンテーションとはどのようなものか」検討する際の観点を、生徒の実態に合わせてあらかじめ吟味する必要がある。
- 4 ●協議会では、何のためにグループ協議を行うのか、明確な意図を司会者は示す必要がある。指導案でねらったことと、実際の授業での学習状況を吟味した上で、協議の視点を定めて参加者に示す必要がある。
- 4 ●協議会では、グループ代表者が、どんな視点で何を報告するのか、司会者から明確な指示が必要である。

[高岡地区]

- 1 △各校1名の参加ということだったが、オンライン等で参加する方法等も検討できたらよい。
- 3 ●部会協議②のもち方は、工夫が必要である。必要感のあるもので、かつ、負担感の小さいものがよい。
- 3 △発表を行わないのであれば、どの郡市が、誰が、運営するのか。部会協議①のみとし授業に関する協議会をするだけではだめか。
- 3 △次年度以降も発表はなくてよい。
- 5 ○必要であれば、事業は継続するとよい。

[砺波地区]

- 1 ●研究授業と部会協議の間の休憩を15分→20分でもよかったか。
- 3 ●今年度はなかったが、例年は6月に実施している「砺波／小矢部」「南砺」での研究授業について報告を行っている。紙上発表のみとし、その分の時間を部会協議①の時間に加えたり評価や指導案の書き方等参加者が学びたい内容について教えていただいたりする方法もあるのではないかと。せつかくの研究授業なので、部会協議①を充実させられるとよい。
- 4 ●参加者を絞ると、若手に偏りがちである。若手や中堅、ベテランのバランスを考えるとよい。
- 5 ○必要感のある講義ならよい。

V

[新川地区]

- 中新川郡では、県中教研と同様の研究主題を掲げた上で、「振り返りの際に学びや変容を自覚できる学習課題の提示や設定の工夫すること」を具体的な研究内容としてきた。今回の「『三角ロジック』を用いてどちらの論説文を支持するか考える」という学習課題は、生徒のより深い学びにつながったと考える。一方で、生徒に変容を自覚させるための振り返りはどうあればよいかという課題が残った。

[高岡地区]

- 氷見市は5校、部員数は、12である(管理職含む)。単独校が2校あり、構成年齢も考慮すると、市の研究授業の運営も厳しい状況となっている。各市の部員数に応じて、発表含め授業の機会を均等にしようが、西部地区全体の授業力向上につながるのではないかと。また、学力調査の作問を毎年1人選出する点を改善していただけないだろうか。市から1人を推薦する形になってから、校務運営上や年次等の配慮から結局は同じ人間が何度も行かざるを得ない状況が続いている。
- 部会協議の中で、資料発表をなしにしたことで、部会協議②を担当する郡市を特定する必要がなくなり、射水市で部会協議①と②をすべて運営することになった。射水市としては負担が大きかった。運営の検討をお願いしたい。

[砺波地区]

△「会場校」「部会責任者」へ渡される経費の内訳を見直せばよいのではないかと。

部会責任者	「資料作成費7,000円」	
	「通信連絡費3,000円」	= 10,000円
会場校	「会場整理人件費4,000円」	
	「会場備品借用料8,000円」	
	「会議費*講師等お茶代3,000円」	
	「消耗品費・コロナ対策含む5,000円」	= 20,000円

\*授業者が使いたいものを購入する費用が計上されていない。

\*付箋紙、サインペン等の物品、お茶代を考えると、会議費3,000円では少ない。部会責任者の方に計上してほしい。

部会責任者	「資料作成費4,000円」	
	「通信連絡費2,000円」	
	「会議費*講師等お茶代等4,000円」	= 10,000円
会場校	「会場整理人件費3,000円」	
	「会場備品借用料7,000円」	
	「研究費5,000円」	
	「消耗品費・コロナ対策含む5,000円」	= 20,000円

<社会部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[新川地区]

- 保護者へのインタビューも行き、聞き取り調査の結果を踏まえて課題自究したことで、より地域住民の要望や課題に根ざした対策を主体的に考えることができた。
- 各班の資料(円グラフ) 掲示用に多くのホワイトボードが設置され、一度に見渡すことができた。
- 今回の単元では、自治意識の基礎を育てることを目標としていた。インターネットを活用した事前の調べ学習に加えて、保護者へのインタビューも行き、聞き取り調査の結果を踏まえて課題自究したことで、より地域住民の要望や課題に根ざした対策を主体的に考えることができた。
- 学習課題に「暮らしやすい」という抽象的な語を含んでいたが、実際に生徒の意見を見ると、自由に考える余地を与えるという意味でプラスに働いたようである。
- 課題自究する際のグループ編成について、通常の学習班ではなく生徒への事前のアンケートによる課題意識の方向性の違いによって教師がグループ分けを行った。課題意識を共有するメンバーで作業を行ったことで、主体的に生徒が活動に取り組むことができた。
- 考えの近い生徒が集まって班を作り発表資料をまとめたことが、全体の話し合いでの意見交換を活発なものにしていた。

○部会協議の指導講話では、事前に部員から、評価について分からないこと・悩んでいることを聞いた上でお話しただけことがよかった。

[富山地区]

○生徒用デジタル教科書を用いたり、クロムブックのジャムボードを活用したりするなど、ICTの活用が図られていた。生徒がICT機器を使いこなしており、日頃の授業の積み重ねが伺えた。

○模擬投票での年代別投票率がカードを色分けすることによって可視化されており、分かりやすかった。

○授業を通して、選挙に行くことの重要性を認識した発言が多くあり、主権者教育として有効であった。

[高岡地区]

○どの自治体でも積極的な活用が求められているICT機器を使用した提案性のある授業だった。また、SDGsというテーマを学習課題に含めての実践だったことも、今後の参考になり得るものであった。

○世界の諸地域の学習で取り上げる地球的問題について、SDGsの視点から社会的事象を考察したことにより、自分たちの問題として生活の実体験と結びつけて考え、主体的に追究する姿が見られ、よかった。

○タブレットPCを用いて班や個人の考えを書かせることは、教師が自分のPC1台で全ての学習状況を何度でも把握でき、意図的指名も行いやすく効率的であった。

○SDGsの視点を用いることで、アメリカの抱える様々な課題について多面的に考えることができた。他の地域にも応用できる取組であった。

○部会協議について、「学習端末を用いた個別学習や協働作業の在り方について」と、「SDGsの視点から社会的事象を多面的・多角的に考察する学習の効果について」という2つの視点を事前に各参加者に連絡してあったので、話し合いをスムーズに進めることができた。

[砺波地区]

○裁判員辞退者について取り上げ、自分自身の考えをまとめる場面を設定したことで、公民的資質を高め、主権者教育を推進していくための課題や問題点が従前よりも明らかになった。

○研究授業では、生徒の様子から、「思考力、判断力、表現力等」の向上に効果があったと思われる場面を付箋紙に書いていた。部会協議では、拡大した指導案にその付箋紙が集中して貼られていたところについて、その理由や改善案を話し合うことで研究主題の解明を図った。

○部会協議の情報交換では、タブレット端末を各校でどのように利用しているかについての情報を交換した。会員全員がタブレット端末を持ち寄ったことで、実際に機器を操作することもできた。指導講話でも、視点を思考ツールとタブレット端末の利用についてお話をしていただき、全体的に統一感のある内容で研修を進めることができた。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[新川地区]

●本時は「効率と公正」という見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に町の予算配分を考えることが自治意識の基礎を育てる手立てとなっていたが、生徒の意見や意見交換の場面で、「効率」や「公正」という視点が明確になっていなかった。

●予算案を見直す際、効率と公正という見方を生徒は十分意識できていたのか疑問が残った。教師の働きかけとして事前に「効率と公正」の概念を再確認して定義づけするとともに、ワークシートにも明記すると、生徒達も考察や議論の視点や方法が明確になると感じた。

●予算を考えるということは、中学生にはハードルが高いのではないかと。ゼロベースで全て考えるのではなく、生徒が関心をもつ部分の金額のみを増減させてみるなどでもよいかもしれない。

●自己調整学習という観点や今回の学習課題の性質からすると、振り返りの活動では自身の立てた予算配分を見直すことがより効果的ではないかと考えた。

●今年度から評価の仕方が3観点に変更になったため、この変更に合わせて授業内容の工夫が必要だと感じた。

[富山地区]

●スラムの形成過程や解決策について話し合うことができれば、もっと考えを深めることができたのではないかと。

●模擬選挙では批判的思考を養って公約の中身の吟味等が行えると、より現実味のある主権者教育となると考えられる。

[高岡地区]

●授業に関しては、学習内容がかなり多く、生徒たちがじっくりと考えたり友達や他の班の意見を見たりする時間が確保できなかった。学習活動の精選が求められる。

●タブレットPCをどのような場面で使うか、なぜ使うか、活用の意図をよく考える必要がある。文字を書くより、入力することの方が取り組みやすいと感じる生徒の方が多く、教師にとっても便利である。しかし一旦活動に入ると文字を入力することに集中してしまい、話し合い活動が活発に行われていないグループがみられた。話し合いを行う時間と、タブレットPCに入力する時間が混同しないような流れを工夫して活用することができればよいと感じた。

●タブレットPCを使うことで、教師と生徒間のやりとりはスムーズであったが、教師対生徒の一方向に限定されていた。タブレットPC上で生徒同士の意見交換を活発に行うことができるようになれば、さらに学習を深めることができるのではないかと。

- 感染症対策ということで授業会場には境界線が引かれ、生徒の話合い活動の時も近づくことはできず、どのようなことが話合われているか、タブレットPCやノートにどのようなことを記入しているか、聞いたり見たりすることができなかった。

【砺波地区】

- 部会協議の時間配分は、授業研究が40分、情報交換が25分だったが、どちらも時間が足りないという印象だった。時間の配分について検討が必要である。
- 授業者、部長、研究推進委員などの部会の中心になる方たちが、全員若手という状況になってきた。授業についてはもちろん、研究や研修の進め方なども含めて、ベテランから若手が学ぶ時間が貴重になっているので、それらを大事に生かしていくことが必要になる。

### III 大会前の諸準備、諸会合について

- 授業者から指導案等が届く期日と、各校や事務所等に送付する日付が同じなのは無理があるのではないかと。また、各所へ発表資料を郵送するにあたって、翌日までに配達を依頼するにはわざわざ郵便局に行き「速達」にしなければならぬ。部会責任者に指導案を提出する期限をもう少し早めてほしい。(新川)
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、事前の会合がなく、会場校との連絡がうまくいかない部分があった。(富山)
- 夏季休業中から授業者と幹事が回数を重ねて集まり、指導案検討を行い、指導案の原案を完成させた。その後、指導案について指導主事に助言をいただいたところ、授業内容を大幅に変更するよう指導を受け、急遽、授業者で指導案を書き直すことになった。早い段階で指導主事の先生に指導案について指導助言をいただけるよう、日程調整が必要だと感じた。(富山)

△資料は各校へのデータ送付で十分だと感じた。ただ、単元に関わる資料は、本時に関連する資料に関わらず全て配布してもらえると、研究授業の参観準備が行いやすい。(新川)

△指導案検討はメールでのやりとりがメインではあるが、指導案検討の最終回は、会場校で検討し、会場等の確認等が行えればよいと考える。運営役員も会場校の教頭、校長と打ち合わせが必要なので、最終回にお願いできればよい。(砺波)

### IV 研究大会当日の運営や内容について(特に問題点や要望があれば)

- △新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、幹事のみ参加となり、会員全体に研修の成果をどのように還元していくかが課題である。(富山)
- △研究大会の在り方については、各学校一名のみの参加制限であったため、経験年数の浅い先生に譲り、参加できないことを残念に思っている先生方が多かった。オンラインや録画での視聴などで視聴できる人数を増やす方法を検討したい。(高岡)

### V 各研究部会独自の意見や要望

- △今年度から評価方法が変更になったため、どのように評価すればよいのか試行錯誤している状況である。部会協議で指導主事より具体的な説明を受けることができたため、今後は、授業改善等を積極的に行っていきたい。(新川)
- △射水市部会では、部長を除いた部員が各学校でのリモート視聴を行った。機材トラブルを少なくするため、一つのカメラと外部マイクで放送したが、おおむね好評で、コロナ禍が終息した後もこういった形での研究会の在り方を検討すべきではとの声も挙がった。地区研究大会でも、より多くの先生方が参観できるように、リモートでの視聴を検討できないか。(高岡)
- △昨年と同じく、参加人数を絞っての大会の運営となった。出席者の研修は充実したものになったが、各学校に残留した先生方の研修が保障されていたのかについて疑問が残った。人数を絞った研究大会を実施した後の、参加できなかった先生方への研修の保障についても考えていく必要がある。(高岡)
- △各地区でリモートによる参加も可能だったと思えるが、県全体、全教科による共通理解がされてなかったため、高岡地区だけとか、社会科だけとかでリモート開催ということではできなかった。(高岡)

## < 数学部会 >

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

〈研究授業について〉 (3学年「関数  $y = ax^2$ 」)

- 導入時で、実際の運送会社の料金表を大きく提示して紹介したことで、生徒たちには、身の回りの事象が数学的に解決できるのではないかと興味・関心につながったと思われる。
- 班活動の座席が、同性で隣同士に作られており、話しやすい雰囲気ができていたと思う。
- 階段状のグラフという難しい課題であったが、宅配便の料金という身近な課題で扱うことで生徒は興味をもって取り組んでいた。
- どちらの宅配業者を選べば安いかという課題では、2つの階段状のグラフを比較して、どういう場面であればどちらの業者が安いかをグループで協力しながら意欲的に考えていた。
- プロジェクターなどのICT機器を扱い、2つのグラフを提示したことが苦手な生徒への手立てとなっていた。

○プロジェクターなどの視覚的な支援があったため、生徒たちが分かりやすかった。また、プロジェクターと黒板の使い分けができており、黒板が見やすかった。

〈研究協議について〉

- 「態度」の観点の評価の方法について、見直し・確認することができた貴重な時間だった。
- 指導主事より、主体的に取り組む態度の観点の評価方法についてご指導いただいたことが良かった。また、各校での実践内容を共有できたことにより、今後の指導の幅が広がると考えられる。

### 【富山地区】

〈研究授業について〉

(1学年「データの分析と活用」／2学年「四分位範囲と箱ひげ図」／3学年「標本調査」)

研究大会の成果について

(全体)

- 3部会(3学年)全てが「データの活用」の授業であったことは、新学習指導要領で力が入っている分野であり、研究授業では取り上げられることが比較的少なく、また、3学期に指導する内容であることから、この実践が今年度の指導に役立つので大変よかった。
- 学習指導案に「単元の評価規準」「指導と評価の計画」を組み込んだことは、何を以てどのように評価するかが明確になり、新学習指導要領における指導と評価の一体化についての理解が深まった。

(1学年)

- データの整理を前時にしたことで、個人、グループで考える時間を十分にとることができた。
- 生徒自身の実際のデータを取り上げたことで、生徒の多様な考えを引き出すことができ、深い学びにつながった。
- 振り返りの場面で振り返りのポイントを示したことで、単なる感想ではなくねらいに迫る振り返りとなった。

(2学年)

- 日常の事象を取り上げ、数学的に表現・処理し、考察するという数学的活動が十分行われていた。生のデータ、身近なデータが生徒の関心・意欲を高めていた。
- ホワイトボードに、既習事項やキーワードが掲示したことが、生徒が理解したり説明したりする手助けとなった。
- 毎時間の継続的な振り返りが、生徒にとっては次時の学習へのつながりができ、指導者は評価や指導の改善ができるため、効果的である。
- 個→グループ→全体→個の流れで、考えを深めることができた。

(3学年)

- 教科書の課題をタブレット端末を利用して解決したことが、今後の実践の参考となった。
- データを生徒自身が短時間で処理することにタブレット端末の利用が効果的であった。

### 【高岡地区】

〈研究授業について〉 (1学年「方程式」／3学年「関数  $y = ax^2$ 」)

- 指導案に単元の各時間の評価方法や評価規準が明記されていて、参考になった。
  - 複雑な問題に対し見通しをもって立式する授業で、わからないものが複数ありいろいろな方程式を立てることができるよう工夫されていた。
  - 瞬時に共有できるデジタル(ICT)のよさと、書きながら考えられるアナログ(新幹線模型やプリント)のよさを上手に生かしていた。
  - 教師がタブレットをもって生徒を机間指導し画面を見せながらアドバイスするところなど、新しい指導の形が見られた。
  - 板書の写真を撮りため、生徒が端末でいつでも振り返ることができるようになっていた。
  - 100m走の距離と速さの関係を、グラフを利用して調べ、関数関係があることを気付かせ、考察する授業だった。初めて見る関数だったが、ICTを利用して課題を提示したり、生徒の意見を集約したり、積極的なICTの活用が見られた。
  - 生徒の意見をグラフに反映させる際に、紙に書かせて黒板に貼ることで、視覚的に確認しやすかった。
- 〈協議会について〉
- 少人数のグループ協議では、各校での振り返りの取組について、たくさん情報交換できた。

### 【砺波地区】

〈研究授業について〉 (3学年「関数  $y = ax^2$  の利用」)

- バトンパスという生徒に身近な題材であった。
- バトンパスの動画を見せることで生徒が興味をもって学習に取り組むことができた。
- バトンパスの動画を見ることで、生徒は問題をイメージすることができた。
- タブレットを用いて指示を出すことで、指示を明確にすることができた。
- BSI法を活用し、自分のグループと他のグループの比較をすることで深い学びに繋がった。
- BSI法で他のグループ員に一生懸命伝えようとしている姿勢がよかった。
- BSI法を活用したことで、仲間の考えのよさに気付くことができていた。
- 振り返りの場面でICT機器を用いたことは、評価にも生かすことができる。

<部会協議について>

○部会協議では、付箋を用いてグループ毎に話し合いを行った。そうすることで、より多くの会員の意見を共有することができた。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

### 【新川地区】

<研究授業について>

- プロジェクターが使われていたが、タブレット端末を生徒たちが利用できるとさらによかったと思う。
- この時間に初めて階段状のグラフに触れて、生徒たちは頑張って2社の料金体系を比較していたが、やはり、前時にあらかじめ別の題材で触れておいても良かったと思う。
- 難しい課題であったために教師の声かけや授業の流れを生徒が考えやすいように仕組みられていた反面、新たな考えに対する驚きや多様な考えを聞く場面は少なかったように思われる。
- (当初予定していた)ブラックボックスの授業も見てみたかった。
- 振り返りの時間を確保できたが、できれば何人かの生徒に発表させて共有させても良かった。

<運営について>

- 指導案等の資料(ワークシート)が当日にも配布していただいたが、学校にメールで送付していただいたものを各自印刷していけばいいのではないかな。

### 【富山地区】

<研究授業について>

(1学年)

- 男女どちらの方が多く勉強しているかを、立場を明らかにして、データを示しながら根拠を明確にして説明することがよかったが、根拠だけでなく、結論まで書いて説明することができるようになるとうい。

(3学年)

- 授業において、記録に残す評価をどうするかを考えておくことが必要。

### 【高岡地区】

<研究授業について>

- 生徒に考えさせる場面を多く設定したらよかった。
- 立式する際には、等しい関係を正しく表現するため、互いに説明し合う活動を取り入れて自分の考えを振り返ることが有効である。
- 日常にある事象を関数関係にあるとみなして考える題材として、難易度はやや高めだった。用語をカードにして準備しておく生徒が説明しやすかった。

<協議会について>

- 参加者が少なかったが、リモート参観が可能だったのではないだろうか。
- 記述(レポートや振り返り)の評価は、あらかじめ基準を決めておくことが大切である。
- 評価は、何時間目に何を評価するかを計画的に行う。記録に残す評価と、指導に生かす評価を行う。

### 【砺波地区】

<研究授業について>

- 「『無駄のない』バトンパス」という表現には曖昧さがある。発問の仕方を工夫したり、「無駄のない」とはどういうことかを全体で話し合ったりするとよいのではないかな。
- 3種類のグラフをはじめから見せると、正解が簡単に分かってしまうので、正解のグラフ(放物線と直線が接するもの)を自分たちで導くような展開もあるのではないかな。

## III 大会前の諸準備、諸会合について(特に問題点や要望があれば)

(1会場郡市、会場校の決定 2地区研究会 3資料の編集及び事前研修会 4資料の製本や配布)

### 【新川地区】

- 1 ○これまで通り、郡市の持ち回りで行う方式で良い。見直しをもって準備ができる。
- 3 ●8月の事前研修会が中止になった時点で、部会責任者が率先してリモート等を活用して、地区の郡市部長と打ち合わせをする機会を設けるべきであった。結果的に後手に回り、ご迷惑をお掛けしました。
- 4 ○資料をメール添付で各校に配布する方法は、準備する側として負担が軽くなって良かった。コロナに関係なく、今後もこの方式が負担が軽くて良いと思われる。
- 4 △製本等、本年度のように集まることなく、各校での準備でよい。ただ、授業者から資料が送られて、製本し、各方面へ郵送するまでの期間があまりにも短かった。今年度は、副部長と授業者が同じ学校であったため、特に問題はなかったが、異なる場合は、副部長への提出日と郵送締切り日を最低でも3日は開けた方がよい。

### 【富山地区】

- 3 △コロナ禍で予定していた部会(8月部会)を開催することができなかった。また、当日の参加も少人数となり、やむを得ないことだったが、指導案検討等、部員全体の研修にならなかったことが残念だった。研究を部員全体にどのように広めるかが課題である。

### 【高岡地区】

- 3 ○指導案の検討を行ったが、夏休みの前半に集中的に行い、十分にできたとは言えなかった。



4 ○学習指導案のデータ配信や各校での資料印刷は、来年度以降も継続して行えばよい。印刷・製本のための会合がなかったことは、負担軽減につながった。

1 ○授業担当校で回すのではなく、人で当てた方がよい。

#### 【砺波地区】

3 △8月下旬の事前研修会が中止となったため運営についての打ち合わせをしっかりとできなかった。なるべく中止ではなく、オンライン研修にする等の方法で開催されると運営分担や事前打ち合わせがしやすい。

4 ○データでの送付を継続するべきである。

### IV 研究会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

（1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義）

#### 【新川地区】

1 △例年通りの開催方法が望ましい。

2 △人数が制限されての研究授業であったが、希望する会員には録画した授業の動画を提供することも検討しても良いのではないか。（後で、各校または各個人で事後研修をするなどに有効だと思われるが、生徒の肖像権等の問題はOKか？）

2 ○例年は教師の人数が多いが、今年度は少なく観覧しやすかった。今後も人数を調整してもよいと思う。

3 △例年通りがよいと思う。来年度は北四大会が富山県で開催されることから、十分に時間を取ってあげべき。

4 ○時間を遅く始めたが、ゆとりがあって良かった。協議会も意見が活発に交わされていて充実していた。

4 ○協議会では、参観者が制限され少ない人数であったが、活発に意見交換がなされていた。

4 ○できればリモート等を活用し、より多くの先生方と学びを共有したいと思った。（今回は、若手の先生方が多かったように思うので、ベテランの先生方の意見も聞きたかった。）

4 ○部会協議②では、指導主事から新しい評価の観点である「主体的に学びに向かう態度」の評価の仕方についてご指導いただいたり、参加者の皆さんが日頃どのようなことを評価に生かしているかを共有できたりしたことが良かった。

4 ○部会協議①と②ともに時間配分が適切であった。

4 △教師がグループをつくって自由に話す場があるとよいと思う。

#### 【富山地区】

1 ●コロナ禍では仕方がないことであったが、開始時刻等の変更は、再調整が難しい。また、発表当日の参加者が限られ、せっかくのすばらしい授業を部員全体で研究、協議できなかったことが残念だったので、部員全体に広める工夫をしたい。

#### 【高岡地区】

1 ○通常通り、多くの部員が参加できたらよい。

1 ○参加者が1人だったが、リモート参観ができれば多くの部員が研修できる。

2 ○早い段階で縮小実施がわかっていたら、提案授業は1つでもよかった。

2 ○研究授業の開始が13時半でなく14時ならば、部員が会場校に集まりやすい。

#### 【砺波地区】

1 ○広い会場（体育館）での実施だったため、コロナ対策を徹底したうえで授業を行うことができた。

2 ●事務局、県部長、部会責任者（東西）がそれぞれアドバイザーと連絡をとっていたので、自分が聞くべきことなのか他者が担当することなのか分からない部分があった。窓口を狭めるとよいのではないか。

### V 各研究部会独自の意見や要望

#### 【新川地区】

・評価についても他校の先生と情報共有をすることができて、とても助かりました。評価について悩んでいたのが、今回の情報を活かしていきたいと思います。また、コロナ禍ということもあって準備や運営が大変だったと思います。ありがとうございます。

・来年こそ新型コロナ等に振り回されない研究大会が実施されることを望みたい。

・次の北四大会が富山県で開催されることから、来年の大会では一年延びた分より良い実践発表がされることを期待したい。

### <理科部会>

#### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

##### 【下新川】

○縮小されての実施であったが、研究大会を実施することができて、生徒の様子を直接参観し協議会を通じて様々な意見を交流できるところに意味があるように感じた。

○中学3年の熱の伝わり方について、二股試験管とサーモインクを使って対流による熱の移動の仕方について考える授業であった。対流は、水が温められたことによる密度の変化によって上昇流が生じることに気付いた生徒が多かった。

### 【黒部】

- 教科書の内容より発展させた内容だったが、班活動では既習事項を活用し、生徒が自信をもって自分の考えを述べていた。
- 生徒一人一人が仮説をもち、実験に取り組んでいる姿がとてもよかった。根拠をもち、それをもとに予想→実験→振り返りという流れがテンポよく、理科の面白さを感じられる展開であった

### 【魚津】

- 生徒の興味がわく課題を設定するで、探求しようとする意欲を高めることにつながったと考えられる。

### 【滑川】

- サーモインクを用いることで温度の変化が視覚化され理解がより定着した。
- 前時の振り返りがあったので予想が立てやすかったように思う。

### 【中新川】

- 対流という現象を事前に理解させた上で、発展的に授業を展開することで、生徒は興味・関心をもちながら活動していた。発展的に考えさせることで、探究の流れができていたので研修主題にもある「探究に必要な資質・能力を育成する」に迫るような内容であったと考える。
- 小学校で学習しているあたたまり方の違いと関連させているので、本実験においての現象を思考するヒントとなり理科の見方・考え方を育成する上で有効であったと考えられる。
- 実験では、サーモインクを用いて実験をしていたので温度変化が可視化され、主体的に実験に関わり、現象を思考する上でのよい手立てとなっていた。
- 発展的な授業であったが、事前に現象をしっかりと生徒に理解させ、予想を立てさせることにより、理科が苦手な生徒も参加することができていた。
- ホワイトボードに班の考え方を書き入れ、全体で見せ合うことにより、学級全体の考えが瞬時に共有できており、多様な考えを生徒から引き出す手立てとして有効であった。

### 【富山】

- 2年生の授業では、郷土の夏と冬の天気の違いについて既習事項をもとに考えを伝え合う授業内容であった。ジグソー学習により、各自の課題解決に向かう意識につながり、主体的に取り組む姿がみられた。また、一人一台端末(クロムブック)の活用によって互いの考えの共有や検討が効果的に行われていた。
- 3年生の授業では、緯度の違いによる太陽の日周運動のコースの違いを、モデル実験を通して見いだす授業であった。モデル実験を通して日周運動のコースを丁寧にとらえ、粘り強く学習に取り組む側面がみられた。
- いずれの授業についても、「評価と指導の計画」を作成し、ねらいと評価の視点を明確にして行った。

### 【射水】

- 電子黒板の利用方法がとても参考になった。特に、2つの考えを比較したいときに、一人一人に2つの画像を一斉配信する場面がスムーズで、授業のテンポを良くしていた。
- 蒸散の場所を調べる実験方法を考える時に、すべての班が同じような実験方法を考えるのではないか、と思ったが、それぞれの班で出した実験方法にも細かい違いがあって、それを先生が指摘されたり、生徒に問い返したりすることによって、よりよい実験方法に近づくことができていた。
- 実験方法を考えるという課題は、生徒の科学的に思考する能力を高めるために大変効果があると再確認できた。

### 【氷見】

- 実験内容を計画することは、生徒が主体的に実験・観察を行う上で非常に効果的であった。発表内容も既習事項が生かされた内容であった。
- 実験内容を再考する時間を設けたことは、自分たちが考えた実験方法が妥当であるか考え直す時間となりよかった。正しく条件を制御して実験を行おうとする意識が高くなっていた。
- 教室に植物を置き、1か月間、観察日記を続けるということは、植物に対する意識を高めたり興味・関心をもたせたり、疑問を生み出したりすることには、とても有効であった。

### 【高岡】

- 仮説に基づいて実験方法を考えることは、生徒の科学的に探究する力を育成するのに効果的であった。また、今後の学習に見通しをもって取り組むことにつながると思われる。
- 評価計画が明確であり、評価の一体化が図られていた。
- ICT機器を活用することで、生徒の意見を効果的に集約、提示することができていた。

### 【小矢部】

- 課題解決学習を設定したことで、生徒は目的意識をもって活動した。
- 分かりやすい学習課題を設定したことで、生徒は意欲的に活動した。
- 自分の考えを仮説にしてから検証実験を行うことは、考察での学び合い活動を活性化させた
- 生徒の考えをICTを使って共有することで、他の考えと比較することができた。

### 【南砺】

- 単元の最初に浮くはずの円柱が沈む現象を見せて、生徒の興味・関心を高めていた。そして単元を通して、生徒の関心を生かして、浮力の学習を先に行い、水圧の学習から浮力を考えるという展開を工夫していた。
- ICTを活用して、各自の予想を提示したり、実験の結果を撮影したりすることで、互いの考えを伝えあうことができた。生徒は、仮説を生かして、円柱の上面と下面の水圧の差から浮力の考えに至っている生徒もいた。
- 本時の終わりには、生徒が沈んでいる円柱を浮かせる方法について考えた方法を実際に行った。生徒は、浮いたときにうまくいって喜んでいたり、仮説の検証もできており、単元を通して考えたからこそその反応であった。

- 授業全体を通して、学習ルールが定着しており、教師と生徒の人間関係も良好であった。根拠をもとに考えを発表する生徒、発表者の方を向いて目をつないで聞く生徒、聞いた後は拍手をする態度など、授業経営の模範となり、若手教員の良い学びの場になった。

#### 【砺波】

- オンラインでの指導案検討会を2回行い、十分に検討できた。
- コロナ対策として、会場へは原則各校1名参加、授業会場の理科室に入れる人数に制限を設け、別室でオンラインにより授業の様子を鑑賞できるようにした。  
(会場に来られなかった部員の方も視聴できるようにした)※昨年度の課題
- 一人1台タブレットを効果的に活用できた。(仮説、結果、考察の場面)

## Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

### 【下新川】

- GIGAスクール構想に対応した、一人一台端末を利用した授業を当初予定したが、実施できなかった。今後、一人一台端末を利用した授業提案があるとよい。
- 教師が与えた課題に取り組むだけの生徒だけでなく、自ら仮説を立てて、仮説や実験結果が本当に正しいのかなど、筋道を立てながら振り返りをすることができる生徒の育成。
- 探究する力を育成するための単元構想、年間計画を立てる。

### 【魚津】

- 毎年実施時期が同じだと、扱う教材が限定されるので、時期を変えられると、様々な分野での研修が行えると考えられる。

### 【富山】

- ねらいを明確にし、学習課題の解決に向かう意識をもたせることが大切である。
- 思考力・判断力・表現力を育てるために、情報を知識や体験として与えるだけでなく、分析して解釈する機会をもつ必要がある。

### 【射水】

- 実験方法の発表方法が、すべての班で発表していたが、注目してほしい班の意図的指名をすれば、さらにポイントがしぼれると感じた。授業の中で班での発表のさせかたについて工夫の必要性を感じた。

### 【氷見】

- 条件を制御して実験方法を考えたのはよいが、ワセリンをどこに塗るかばかり意識がいていたので、蒸散が行われる場所を意識させると各班の実験方法を交流するときに分かりやすかった。

### 【高岡】

- 実験方法を考える上で、条件制御について不十分な班への指導の在り方。
- 生徒が考える実験方法がどの程度課題の解明につながるのかを教師が事前に把握しておくことが必要だと思う。
- 生徒の創意を生かすことと教師の指導のバランスの在り方。

### 【南砺】

- 水圧の差にほぼ全員が気付いていたが、上面と下面を押し「力」として考えることができない生徒が多く、考察の場面で上手に浮力に結びつける思考に至っていなかった。このような場面での、教師の支援はどうあればいいか、更に研究を進めたい。
- 3年で力のはたらきとして、水圧、浮力を学習するとき、指導要領の解説では、「定性的に」となっている。しかし、上面と下面の押し力を計算してしまうと、「定量的に」になってしまう。この単元での、計算の取り扱いについて考えていきたい。

### 【砺波】

- 会場に来られる部員や来られなかった部員が部会協議等で双方向のやりとりができればよい。(チャットは活用できた)
- 若手教員が積極的に授業を見られるような、研究大会になればよい。

## Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について (特に問題点や要望があれば)

### 1 会場郡市、会場校の決定

#### 【小矢部】

- 会場郡市の決定については、検討してほしい。
- 会場校の決定については、4月以降に再検討があってもよいのではないかと。第1優先校、第2優先校を決定しておき、必要に応じて対応する。

### 2 地区研究会

特になし

### 3 資料の編集及び事前研修会

#### 【富山】

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、事前研修会や指導案検討の会合が満足にできなかった。指導助言の先生方とは、メールで打ち合わせをし、遠隔会議システム(Zoom)で授業者と指導案検討をしていただいた。

#### 【南砺】

○指導案検討をZOOMで行った。賛否あるかもしれないが、今後、この形式での指導案検討を続けてもよいのではないか。

#### 4 資料の製本や配布 等

#### 【富山】

○資料をメールで各校に送付し、各校で製本したが、問題はなかった。製本のために集まる必要もなく、今後も継続したい。

### IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

#### 1 運営分担や日程

#### 【富山】

○富山市では、一般会員の参加者を、市理科部会役員及び授業校理科部員のみ12名とした市理科部会役員には役割が予め割り振られていたが、参加者を縮小したことで部会協議数が1となり、運営分担上は余裕があった。一方、指導助言の時間を十分にとることができなかった。

#### 【砺波】

○今回は部会責任者が会場校におり、部員が多かったから運営できたが、状況によっては事前の打ち合わせが全くできなかったのはつらい。

#### 2 研究授業

#### 【富山】

○当初、授業会場のひとつを体育館と考えていたが、参加者が縮小されたことで通常の広さの特別教室(家庭科室)にすることができた。不自然に大きな会場でなかったことで生徒もいつも通りの姿で授業に臨むことができていた。  
○参加者は2つの授業を自由に行き来して参観した。授業会場が近かったために時間に無駄はなかったが、参観が断片的になり、授業全体を検討するには不都合があった。

#### 【高岡】

○コロナウイルス感染拡大防止のために、参観者の制限があったため、オンラインでの授業配信を行った。オンライン参観者に授業の内容等がしっかり伝わったのかの検証が必要である。

#### 【南砺】

○ZOOMで参加できない先生方がリアルタイムで視聴していたのがよかった。授業、部会協議ともにコメントが入ることで、議論も高まった。  
○理科室内の人数を制限して、近くの部屋で視聴できたことで、生徒も感染の心配せず安心できたのではないか。

#### 3 研究発表

#### 【砺波】

○発表者の負担が多かった。もっと双方向にやりとりがとれる協議になればよかった。事前の打ち合わせ不足。

#### 【小矢部】

○6月の砺波地区中教研で行われた研究授業についてまとめた内容を発表した。発表にあたっては、画像を用いた内容で分かりやすいものであった。

#### 4 研究協議

#### 【富山】

○参加者が少なかったために1部会のみで協議を行った。2つの授業の検討と指導助言を行うには、時間が不足した。指導助言の先生方には、学習評価についても話していただいた。

#### 【砺波】

○部会協議では、授業に関する話で時間いっぱいであった。研究主題解明や各校の取組や意見交換の時間が設けられるとよかった。

#### 5 授業力向上のためのアドバイザー講義

今年度は中止になった

### V 各研究部会独自の意見や要望

#### 【魚津】

○コロナ禍で、参加人数を制限して実施しているが、これによってメリットも出ていると考えられる参加人数など、今後の研修会のもち方について検討してもよいかと思われた。

#### 【富山】

○今年度は参加者数を縮小したことで、多くの部員が研修の機会を失った。指導助言を含め、研究大会の内容を本市理科部員にどのように還元するかは、大きな課題である。

#### 【砺波】

○次年度の研究校を決めるためには、部員が全員そろった方が都合がよい。

○部会協議を充実させるための時間の確保が必要である。

○引き続き、部員が授業会場に入れないときの手立てと会場に来れない部員の手立てが必要である。

## <音楽部会>

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

#### 【東部地区】

##### <研究授業>

- ICTや黒板が有効活用されていた。その時間の学びが全てわかる黒板であり、また板書の仕方も工夫されており、参考になった。
  - ICT機器の効果的な活用や音楽要素に対する掲示物が整っていた。
  - 先生の歌声がとても美しかった。生徒にとって目指す歌声が身近にあることはとてもよい環境だと思う。
  - 身体表現が効果的だったと思う。イメージするだけでなく、なりきることで、より分かりやすく情景や心情を感じることができたのではないか。
  - 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫するために、歌詞からイメージを膨らませ、いろいろな歌い方や身体表現に取り組んだことは、生徒自身の考えを深めたり、表現力を高めたりするのに効果的だった。
  - 歌詞の解釈のため、身体表現を取り入れ複数を比較しながら、自分たちの歌をつくり上げていた。
  - 歌詞の内容を身体表現で体感するという活動は、照れくさそうにしている生徒も多かったが、このような活動を継続的に行っていくことで、「歌詞を大切にしたい。」「歌詞の内容をしっかりと表現したい。」という気持ちを引き出すことにつながっていくのではないかと感じた。
  - 歌詞の音読を繰り返す中で、子音を強調して発音することによって大切な言葉が際立ってくることを生徒自身が実感できていたと思う。
  - 正反対はものの比較が効果的であったと思う。休符の意味や効果が分かりやすく感じられたと思う。
  - 思いが伝わる合唱にするために、子音の歌い方や響きのある声の出し方など、技術的なことの伝え方がわかりやすく、参考になった。
  - 生徒の意見をICT機器で集約したり、スクリーンに投影したりして効果的だった。一方、合唱曲の歌詞はマジックで書いて掲示してあり、新しい意見を書き込んだり、これまでに考えたイメージや表現の工夫を全員で共有したりするのに効果的だった。
  - 生徒の発言を丁寧を受け止めながら、生徒の思いを反映された授業だった。とくに、ハミング唱や母音唱等の技術指導の場面設定は、生徒の「～なふうに歌いたい。」という思いを自分たちの声で具現化するための手立てとなっていた。
  - ICT機器等の活用によって、生徒が感じたことや考えたことを整理したり、共有したりすることで、表現活動につなげていくことにこれからの研修の一定の方向性が示された。
  - 確井先生の音楽への情熱や先生自身が音楽を楽しんでおられる先生自身の魅力が、生徒に伝わったとても雰囲気の良い温かな授業であった。
  - よい響きをつくるための指導が効果的であった。顔や鼻の、びりびりするところの確認のあとの合唱が個人的には一番美しい響きを感じ、感動しました。
  - 地声と頭声の歌い分けをしたり、動作化や音読をしたりなど、多様な活動に生徒たちは楽しく積極的に取り組んでいた。歌い試す活動を通して、歌声にも変化が見られていた。
  - 言語活動と歌唱活動がバランスよく盛り込まれている授業であった。
  - ジャムボードの活用は、全員の考えを画面で共有し、いつでも確認することができるのでよいと思った。
  - 楽譜を拡大したり、書き込んだりできるデジタル教科書の活用は、大切なポイントを意識するために効果的だった。
- ##### <部会協議>
- 海見指導主事より、これからの学習指導案の書き方について教えていただき、来年度以降の指導案作成の参考となった。
  - 少人数の参加だったため、意見交換が非常に活発に行われた。
  - 少人数だったが、活発に意見交換がされ、様々な考えが聞けて有意義だった。
  - 教員が生徒のできたことを評価することによって、自己評価する際の視点になることを学んだ。
  - 指導案の書き方の細かい部分を教えていただき、大変参考になった。
  - 他の学校のICT活用の現状を知り、もっと活用していこうと思うとともに、自分自身がタブレット活動に慣れていかなければと思った。
  - 評価について学ぶことができたのでよかった。

#### 【西部地区】

- プレゼンテーションソフトで『展覧会の絵』の基となった絵を提示したり、タブレットに音源を入れておき、何度も繰り返し聴くことができるようにしたり、また、グループで話し合った内容をタブレットにメモするなど、ICT指導員の同席の元、ICT機器を有効に活用した。
- 鑑賞の授業におけるタブレット活用のメリット（個人が好きなように音楽を聴ける）を感じた。
- 導入では、プレゼンテーションソフトで前時を振り返り、要点を押さるなど、学ぶ意欲を高める学習活動となっていた。

- グループの話合い活動では、音色、リズム、旋律の3観点でそのよさを書き出し伝え合う活動をしてきた。
- グループ活動の時間をしっかりととっており、他の人の感想や意見を聞いたことで、自分の考えが広がったり深まったりしていた生徒が増えたように感じた。
- 個人、グループでの意見交換を基に、批評文を作成して他のグループと交流するなど、様々な関わり方を通して、見方・考え方を広げるための学習活動が展開されていた。
- 意見交換の場面では、言葉のやりとりだけではなく、ICT機器を使用して何度も繰り返し確認し、言葉で表したことと音楽との関わりを捉えることができるような工夫がなされていた。
- 射水市で積み重ねてこられた、鑑賞の授業についての多くの工夫を学ぶことができ、大変よかった。
- 生徒たちの言語活動が充実しており、指導の積み重ねの大切さを学んだ。
- 短時間でも、ICTについても具体例をたくさん聞くことができ、授業に生かせそうだと感じた。
- 日々の授業に生かせること（ワークシートの枠やスピーカーの活用等）が多くあり、勉強になった。
- 生徒が主体的に学習に取り組めるように、教師の手立て（ヒントカード、プレゼンテーションソフトによる楽曲解説、資料提示）等がとても工夫されていた。

#### <部会協議>

- 鑑賞におけるICT機器の活用について、授業における実践的な事例を基に紹介していただき、今後の取組の参考となった。
- 同一の教材に対し、複数の指導案を提案していただき、参考になった。生徒の実態に応じて各校で活用できる内容であったので、今後の参考となった。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

### 【東部地区】

- 研究主題である「育成を目指す資質・能力を明確にした」評価では、どのような思いを音楽で伝えるか（思考・判断・表現）と歌詞の発音等の技能の習得（知識・技能）が明確にされないまま進んでいた。※表現するに当たり、技能の習得は関連あるのだが、本字のねらいがややぼやけてしまった感がある。
- △本時の評価については、評価しにくい場面や方法であった。録画やワークシートの記述することで評価できるようにすればよいと思った。
- 授業内容を研究主題に合わせて検討を重ね、練り上げて行かなければならない。
- 学級全体で見る歌詞の模造紙だけでなく、生徒個人の楽譜に記録させるなど、見返した時に振り返ることができるものを残すことが大事だと感じた。
- 歌い試す活動では、生徒たちの歌声に変化が見られたが、最後に通すときに元に戻ってしまっていた部分もあった。反復練習など歌う時間を増やし、定着を図るとよいと感じた。
- 歌う時間が増えるとよいと思った。
- 生徒の発言が聞こえにくかった。体育館という広い場所でよかったが、よく響いていたのだと思う。
- 教師の発問に対して生徒の反応はよかったが、その反応をさらに深めたり、広げたりできるような教師からの問い返しがあれば、教師と生徒、あるいは生徒同士のやりとりも活発になり、生徒主体の授業になったと思う。
- 本時の合唱の録音と前時の録音を比較鑑賞する時間があれば、次時に生かすことのできる充実した振り返りの時間になったのではないか。

### 【西部地区】

- 市によって、または個によってICTの活用に関して大きな開きがあると感じた。（射水市のように専任の方がいてくださり、いろいろアドバイスを受けられるのはとても羨ましく思います。）
- △使用しているタブレットやソフトは各市で異なる。同じ機器やソフトを使っている市同士で実践例を紹介したり、まとめたりすることで、よりICTの活用が進むのではないかと思う。
- 各市、または個々で、よりICTについて研究を進めていかないといけないと感じた。
- ねらいにあわせて「タブレット」「ワークシート」どちらを利用するのが適しているかの吟味する必要がある。
- タブレットに入力する場面を吟味したり、入力内容をどう評価するのかを考えたりする必要がある。（打ち込みが得意な生徒、そうでない生徒に差が出ないようにしなくてはならない）
- 「批評文」を書く活動は、文章力（国語力）がその内容を左右する要素を多分に含んでいる。評価をどのようなポイントで行うのかを教師がはっきりともっていることが必要だと感じた。
- △学習専用端末の活用例について、授業で使う場面や使い方を具体的に研修できる機会があればよい。
- △生徒が自分の考えを深めたり高めたりするために、どのような発問するか、どう問い返すかといった教師の働きかけについて、研究を進めていく必要がある。

## III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

### 【東部地区】

- 3 指導案検討や事前授業の機会がほぼなくなった中、タブレット端末等を活用したオンラインでのやりとりは効果的であった。これからの研究の在り方が示された大会で会った。

4 滑川市のみ送れなかった資料があったと聞いております。原因がわからず。

お手数おかけし、申し訳ありませんでした。

4 ペーパーレスでデータ送信されたが、集まる回数も1回減り、負担軽減となった。

#### 【西部地区】

4 今後もPDFデータでの資料配付がよい。

4 資料データでは不鮮明な部分があったので、PDFデータではなく、wordか一太郎データで送ってもらえるとよい。

### IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

#### 【東部地区】

1 ZOOM等を利用して、できるだけ会員全員が参加できるような運営方法を考えていけるとよい。

2 合唱の授業をしていただき、表現や歌声の指導方法が大変参考になった。

4 今回は出席者が少なかったが、先生方お一人お一人のお話が伺えて、それはそれで有意義な研修となった。

4 コロナ対策ということで仕方がないことだったかもしれませんが、かなり少人数での研究大会になってしまったことが残念でした。そのときの感染状況にもよるとは思いますが、来年度はせめて各校につき1名は参加できると良いと思います。

4 じっくり研究授業の協議や指導主事のお話を伺うことができてよかった。

4 海見指導主事に、学習指導要領に基づいた学習指導案の書き方にSついて、分かりやすい説明があり、後の指導案を作成する際の参考となった。

5 授業力向上アドバイザーによる講義が2年連続実施されなかったが、オンライン等方法を工夫して、新の教育事情等について知りたかった。

#### 【西部地区】

1 データで指導案を送付し、各自で印刷する方法を、今後も継続すればよいと思う。

1 広範囲から会員が集まるので、開始時刻が遅く設定されたため、余裕をもって参加できた。

1 遠方の教員も、ゆとりをもって来校できる開始時間だったと思う。

### V 各研究部会独自の意見や要望

#### 【東部地区】

●各校1人体制で自校での研修ができない音楽科教員にとって、他の教員との交流や研究授業を直接見ることは重要な研修機会となっている。他の教科（特に会員の多い教科）同様、一律の参加制限はいかがなものか。今回も碓井先生を始め、会場となった岩瀬中学校では十分な対策をとっていただいた。全員参加の研修は可能だったと感じている。教科裁量で部会運営を行えればと思う。

○研究大会に向けて、企画や準備をしてくださった先生方や、授業をしてくださった碓井先生に感謝申し上げます。

#### 【西部地区】

●今年度から指導案の形式が変わり、「国研」の本を読み解きながら書いているが、それでも書き方に悩むことがある。指導助言で、指導案の書き方について少しでもお話を聞きたかった。

●ICTの活用法について紹介していただいたが、市町村によって使用しているタブレット本体、ソフトが異なっていると説明だけでは理解しにくいところがあった。まだまだ不得手なので、勉強したい。

●東西交流ができなかったのが残念だった。アドバイザー講義が毎年開催できるようにオンラインで配信する方法を検討していただきたい。

### <美術部会>

#### I

#### 【東部】

○空間表現された作品を比較して鑑賞する活動は、どの生徒も楽しみながら、鑑賞できるとも参考になる授業でした。

○生徒の意見を効果的に情報共有するための様々な方法（ICTの活用など）を話し合うことができたことは、よかったと思います

○作品がカード形式になっていて大きさが統一され、生徒自身が並べ方を工夫して、空間表現がなされている作品カードからホワイトボードに配置できるようになっていたのは良かった。

○空間表現の出来ている順に班で話し合っって並べるという作業が、ゲーム形式になっていて、生徒もおのおの自分の意見を活発に出し学習していた。

○作品鑑賞の視点が“空間表現”と明示されていて、生徒にとって考えやすかった B

○作品の選定に先生の意図がはっきりと出ていたことが良かった。

○グループでの話し合いに十分な時間がとられていた。

○作家作品の鑑賞において、美術科においての見る視点を養う活動だった。今後、生徒が成長していくことで得られる力や社会に出て美術作品を主体的に見る視点や力が付けることができる可能性につながったのではないかと。

- 小さな作品が班ごとに作られており、ホワイトボードに全体を俯瞰でき、ゲーム感覚で移動しやすいため、グループ活動で意見を変更しやすく、気軽に扱えた。
- 評価が4観点から3観点となり、どのような様式で指導案を作成するかが、幹事会では、議論となった。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に評価基準の事例が参考になった。また、部員へも広げていきたい。

#### 【西部】

- 部会協議ⅡではICT機器の活用例を各校の先生方と情報交換できたのは大きな収穫だった。ぜひ自分の授業に取り入れたいと思う内容が多々あり、刺激となった。
- 生徒はスライドを通して自分の考えを整理し、使う人の気持ちに寄り添ったデザインについて考えることができていた。
- 部会協議Ⅱでは、全員が話し合いに参加することができたと同時に、日頃の悩み等を気軽に情報交換できる機会となった。来年度以降もグループ協議を継続していい。
- コロナ禍の中、近くにいっても距離を保たなければならない状況において、タブレット端末を用いることにより、安全に交流ができていた。
- ICT機器の活用により、密を避けつつ小グループで相互鑑賞ができていた。また、制作に展開していく部分の選択肢が何重にも用意しており、今後の生徒の多様なねがいに沿った制作風景が想像できた。容量も予算も時間も限られた中で最大限の効果を目指した周到な準備とノウハウの積み重ねが、1時間の授業から伝わってくる素晴らしい研究だった。
- 授業の中で、生徒のアイディアスケッチの共有、PowerPointを用いた説明画面やつくり方動画の提示等、教師の指導におけるICTの活用例が数多く見られた。参加者が今後の授業に生かすことができる内容だった。
- 部会協議②では、各自のICT活用の実践例を持ち寄り、成果と課題について協議した。学習専用端末の活用にあたって教員の経験値が十分とはいえない今、ICTの活用について情報交換を行い、研修を深められたことは有意義だった。
- 今年度の参加者の顔ぶれを見て、世代交代が一気に進んだと感じました。授業者は「これでもか」というくらいたくさんの準備をして授業に臨まれており、研究授業にいかに取り組みかという姿勢を若い先生方に見せてくださったと思います。

## II

#### 【東部】

- 授業のまとめの際に、プロジェクターなど視聴覚機器を活用した方が各班の発表が分かりやすくなって良かったのでは。
- IT機器の活用についてももう少し考えてみてもよかった。
- 小さな作品は班ごとには全体を見ることには適していたが、作品がもつ力強さや細かな色彩や線は見えにくい。ICT活用の中にも言われたが、壁などに作品の大判コピー等があり、見に行くことができればもっと見方が深まるのではないかな。
- 鑑賞の時の意見の共有はなかなか難しい。時間配分もあるが、やはり個人の意見を持たせてから共有したい。そのためには作品点数を精選して減らしても良かったかもしれない。
- 空間認知等はやはり学年が上がってから見えてくること、考えられること、言語化できることがあるので、発達段階をまたいだ内容を行う時は、さらに注意深く授業・板書のまとめをして知識等を押さえていきたい。

#### 【西部】

- 研究大会だけではないが、指導案の題材名に内容構成の位置づけも明記すると指導者がどのような資質・能力の育成をねらっているのか分かりやすくなると思う。(A表現(1)ア(ア)のような表記)
- アドバイスが難しそうだった。特に文面では誤解も生じやすいので、書くのをためらったのではと考える。
- コメントを基にアイデアを練り直す時間が少なかった。コメントをもとに発想や構想を深めるまではいかなかったが、他の生徒に認めてもらったことで自信をもって制作をすすめていけるのではないかと感じた。
- グループ協議の時間をもう少し取ればよかった。
- 生徒が主体的に学ぶためには、生徒にとって必要感のある学習課題、学習活動が大切だと考える。生徒の実態を把握し、教師が生徒に考えさせたい・気付かせたいことを組み立てる必要がある。
- 陶芸という難しい題材に取り組んでいるところに感心しました。タブレットを使った相互鑑賞も先生の研究の深さは感じられ、制作において教師側のエネルギーの大切さが伝わりました。
- 部会協議①において、大型モニターを何台か設置させていただき、学習専用端末に保存されている生徒のアイディアスケッチが見られるようになっていっているとよかった。
- 部会協議②では、各班の発表を行って協議内容を共有したが、その際、さらに全体の学びとなるために、それぞれが持参した端末を大型モニターにつなげて説明し合うとよかった。



### III

#### 【東部】

- △時間も回数も必要十分であった。指導案をメールで送ることは会合を減らすという点で効果的であったが、配送の締め切りが不明確になる点が難点だった。
- △指導案のPDF化等、会合が少なくなるようにしていただき、ありがたかった。ただ、参観者が少なくなり、研究大会を終えてのまとめが作りにくいので、いつもより早めに指導案をもらえると事前に話し合いをもつなどできるのでありがたい（授業の進度で難しいと思うが）。
- △昨年辺りから指導案の書き方が変わってきていると思うので、作成側も大変だと思う。
- 製本や配布について、来年度以降も引き続きPDFデータでの配布を行うのであれば、PDF化を前提とした様式の配布をお願いしたい。（表紙や地区研究会資料に収録する各項の書式(余白や行、文字数等)を統一したものに指定して、部会責任者に知らせる等) PDF化のため、一つのファイルにまとめた際に書式が崩れてしまい、見た目が合うよう調整する必要があった。

#### 【西部】

- △「資料の編集及び事前研修会・製本や配布」については、PDF化が定着しているので、例年の9月の会合は今後も削減していくべき。
- 資料がデータで送付されたことは、受け取る側としてもよかった。
- △射水市は6校の中学校があり、そのうち2校の特別支援級を美術科が担当している。その上、産休等で3名が来年度は在籍せず、おそらく講師の方に助けで頂くことになる。あまりにも大変な時期なので、来年度の研究授業担当地区として不安である。順番を交代してもらえたら助かるのだが。

### IV

#### 【東部】

- △コロナ禍で、限られた人数での授業参観だったが、可能であれば限定でオンライン配信するなどして、他の参加できない部員の方にも視聴してもらい意見をもらおうと研究がより深まると思います。
- 中教研の美術部員の数は少ないので、他教科ともども一律に今回の参加が運営委員や関係のみとせず、空間的には余裕があったので参加人数を増やしてもよかったのではないかと（美術科の教員が各校一人のみの場合も多く、限られた研修の機会なので）。たとえば、全員が無理であれば13年次までの初任～中堅くらいの教員は参加したとしても、今回は会場的に余裕があったのでは。美術科は他の先生の授業を見て研修する機会が少ないので、来年度はその少ない機会をできるだけ確保してほしい。
- 会場が広く明るく開放的で十分な余裕をもって参観することができたのは良かった。
- 授業後の研究討議の時間が十分あり、各グループの発表も追われるようなこともなく、しっかりと聞いたことが研修を深める意味でも有意義だった。
- △アドバイザーのお話はぜひ聞きたい。特に人間性に関わる場所の評価の仕方は難しいところがある。

#### 【西部】

- 感染症予防のため会場の設定や設営、部会協議の持ち方など様々な工夫が行われていると感じた大会だった。ありがとうございました。
- 毎年、各教科部会では研究計画が打ち出されており、研究大会でも主題解明のために研究授業が行われていると思うが、今年度の重点項目に関する内容が協議会で取り上げられなかったことは残念だった。主題解明のため視点を明確にした研究大会になると部会全体で研究していく原動力になるのではないかと。
- ICT機器を活用した事例の意見交換について、どのグループも同じような内容の発表が多かった。ICT機器を活用しきれていないので、具体的な実践例を動画や資料等で紹介いただくと有り難い。

### V

#### 【東部】

- △次年度も中新川、滑川合同で協議会行っていきたい。
- △美術教員は各学校1名であることが多い。若い教員等は授業の悩みを抱えていても、日頃から先輩教員に相談できる機会が少ない。同僚が他教科であればなおさらである。そうした悩みを共有できるような場を来年度はぜひ作ってほしい。
- △過去の資料を電子データ化して、アーカイブとして常に閲覧できるようにしてほしい。
- なかなか郡市の部会が開催できず、運営が難しい。

#### 【西部】

なし

## <保健体育部会>

### I

[新川地区]

- バスケットボールに必要な動きが入った準備運動、ゲーム時のルールの工夫、役割分担等、男女で活動できる工夫がなされていた。
- 研究発表はICTの活用について、実践例を基に、良い点と問題点を提起され、今後の利活用に向けて課題の整理や検討事項をまとめることができた。

[富山地区]

- 一人一台端末を活用した授業の提案として、保健体育の授業におけるクロムブックの活用方法について意見交換及び情報共有することができた。

[高岡地区]

- コロナ禍における跳び箱運動の授業提案であった。授業の途中で手指消毒をさせるなど、細かな感染予防対策が行われ参考になる授業であった。

[砺波地区]

- 屋外種目（サッカー）の授業であったこと及び感染予防対策を十分に行うことで、部会員全員の参加による研修を実施できた。
- 小グループに分かれ、グループ毎に観点を絞り授業を参観した。協議では小グループで意見交換を行ったことで多くの意見が出た。

### II

[新川地区]

- 「見る」「支える」活動が入ると、運動量が減る可能性がある。話し合い活動を含めて、運動量の確保との兼ね合いを図る必要がある。

[富山地区]

- 「授業力向上のためのアドバイザー講義」が急遽中止になり、「協議会①」の内容を変更した。充実した協議会になるよう事前に十分な準備をする必要があると感じた。

[高岡地区]

- ICT機器を活用する時間確保と運動量の確保の両立については、今後重要な課題になるため、これからも効果的な活用方法について研修に取り組む必要があると感じた。

[砺波地区]

- コロナ禍の状況における感染予防対策から、リモートを活用した研修も考えられる。生徒の表情や目の輝きは、実際に同じ場でないと感動や課題は実感しにくいため、なるべく参観する方法で実施したい。

### III

- 1 会場郡市、会場校の決定・・・なし
- 2 地区研究会・・・なし
- 3 資料の編集及び事前研修会・・・なし
- 4 資料の製本や配布・・・なし

### IV

- 1 運営分担や日程・・・オリエンテーションがなく、生徒の実態やこれまでの取組等について共通理解を図る時間がなく、授業を参観する上で支障をきたす面もあった。
- 2 研究授業・・・なし
- 3 研究発表・・・なし
- 4 研究協議・・・なし
- 5 授業力向上のためのアドバイザー講義・・・なし

### V 特記事項なし

## <技術・家庭（技術）部会>

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[新川地区]

- 授業実践は長期間のまとめとなっているが、記録がしっかり残っていて、家庭での体験等も加わり、素晴らしいまとめになっていた。これも、先生と生徒との関係がしっかりしているからだと感じた。
- オンラインにより、県内はもちろん、他県のすぐれた実践を学ぶ機会となった。
- コロナ禍により、様々な制限がある中、映像による授業発表は、要点がしっかり絞られており、注目する箇所が明確になっていたのがよかった。
- 授業を動画で視聴したことやzoomを利用して意見を交わすことができた。
- 一つの技術に注目して研究を進めたことは発表者として学びが大きかった。
- △ICTの活用方法に工夫が見られた。これをTeamsやロイロノートで行う場合を考えてトライしてみたい。

[富山地区]

- 生物育成の学習において、2年次から学校と家庭での連続的な実践を設定し、つながりを意識した問題解決的な学習のプロセスによって、生徒が必要感をもって取り組めるように教育課程を編成したことにより、自分の家庭、社会における「これからの生物育成の技術の在り方」にさらに繋げようとする意欲を高め、思考のステップアップに繋がった。
- 自分の実践の中でうまくいった点や、問題解決のための課題を検討し、必要感をもって自分の生活や社会とのつながりを意識できるような課題を設定したことによって、自分がよりよい生活のために将来にわたって今後も家庭で実践していける具体的な栽培方法の確立や、社会全体が続けていくことができる栽培方法の提案を主体的に行うことができた。
- 「接合法」というテーマを設定し、身の回りの製品の観察と市販品の組立や分解という実践的で体験的な学習を通して技術を読み取らせることで、普段あまり注目していない技術にも様々な工夫があることや作り手の思いを感じることができた。

[高岡地区]

- 今年度は、東海・北陸地区中学校技術・家庭研究大会としての開催であったこともあるが、授業のオンデマンド公開、オンライン研究発表といったコロナウイルス感染症対策が十分になされていたと思う。今回のような研究大会の開催方法も十分可能な時代となってきたと思う。
- 「技術の見方・考え方」に関する視点を「技術ものさしの4観点」として捉え、技術を最適化できるようにワークシートにも活用されていた。
- エネルギー変換の技術の領域で、身近な事例を題材にして思考したことは今後の生活の仕方への一助となっていた。

[砺波地区]

- 新学習指導要領の全面实施を受けて、題材や指導過程について新しい取組を提案できたと思われる。
  - 「動画撮影からの編集を通しての授業研究」は、細部よりもダイジェストとしてその授業を捉えるには効果的であった。細部の協議ももちろん大切だと思うが、その授業のコンセプトや授業者の思い、活動内容を捉えるには十分で画期的だと思う。
  - コロナ禍の中、東海・北陸地区をオンラインという形でつなぎ、研修を実施し、本研究大会をつないできたことは大変意義深いことだと思います。事務局をはじめ多くの先生方のご苦勞があつたことだと思う。今後もこのようなオンラインでの研修が増えてくることも予想されるので、いい学びになった。
- △タブレットPCを有効に使った授業であった。今後、さらにICTの効果的な利用について研究を深めていく必要がある。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[新川地区]

- 発表に対する生徒からの質問などがあればよかった。先生からの質問は広い視点、専門的な知識からの指摘でよかったが、生徒の体験を通して見て、聞いた中からでてきた質問を聞いてみたかった。
- △できることなら生で授業を見たい。生徒の活動の様子を実際に見られるような工夫が必要である。
- △協議時間の沈黙が長い。他県の先生方と交流できる機会はめったにないので、もっと話ができたらよい。少人数グループでの協議時間を設けるなどできないだろうか。
- △全体会の講演は、今回の様にもものづくりに関わる人の話を聞くのもいいのではないだろうか。

[富山地区]

- 生物育成の技術では、課題の設定が広範囲にわたっているため、考えの深まりが薄くなってしまった。現在の日本に関連づけて課題を絞ることで、さらに考えが深まると考えられる。また、課題設定の際に、他の分野に触れることができるとさらに考えが深まると考えられる。
- 指導と評価の一体化をしっかりと考え、計画を立てることが課題である。
- 問題解決的な学習の充実を図るためには、そのための課題や発問が適切であるか研究していく必要がある。
- △材料と加工の技術では、生徒の生活体験が不足しているため、作業動画等の準備が必要である。また、タブレットの活用も検討しなければいけない。

[高岡地区]

- 研究授業のオンデマンド公開、オンラインによる発表も、東海・北陸大会ということで、専門業者の助力があったことその実施形態だったと思う。来年度からは、通常の研究大会にもどることを願っている。
- 各班のホワイトボードを1班から順番に黒板に掲示していたが、同じ意見同士をまとめて掲示したら対比しやすくなっていたのではないかと考える。
- △今後、技術科部員の増加が見込めないことを考えると、研究大会の内容を考えていく必要がある。東西合同で行うことも考えられる。

[砺波地区]

- 新しい観点での評価について、具体的な事例をもとに評価方法についての研究が必要だと感じた。
- 授業者、発表者ともに部員の減少によりローテーションが厳しくなっている。今後、そんな状況下でも効果のある研究の仕方を協議していく必要がある。
- △ICT機器を有効に使う手段や、教材研究を進めていく必要がある。

### Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

[新川地区]

#### 1 会場郡市、会場校の決定

○映像・通信の部分が外部委託になり、スムーズであり業務の軽減となった。

●東海・北陸大会だから、大きな会場が必要であることは分かるが、資料代、昼食代、駐車場代と負担が多いのではないかと思う。もう少し検討できないだろうか。

●今後も積極的にオンラインを活用したほうがよい。わざわざサンフォルテに集まる必要はなかったのではないか。事前準備はもちろん事務局の方々に多大な負担がかかった。

●申込完了者の確認を早くしておくべきだった。事務局に多大なご迷惑をかけてしまった。

△通常の中教研大会も同様に、郡市部長が集まる回数を少なくしてほしい。

#### 4 資料の製本や配布 等

△来年度以降も製本は行わず、データで送付が望ましい。

[富山地区]

#### 1 会場郡市、会場校の決定

●各郡市の会員数に差が生じている。会員の少ない郡市で一律の研究は難しい。決定の改変が必要である。

#### 4 資料の製本や配布 等

△資料の製本や配付等について、製本を廃止し、PDFでの配布でよい。

高岡地区]

#### 4 資料の製本や配布 等

△資料の製本や配布のための会合は、必要ないのではないだろうか。今年のような電子メールを使う方式で十分だと思う。

[砺波地区]

#### 2 地区研究会

●部員の減少により、毎年の研究授業や3年に1回の西部地区の研究授業は難しい状態となっている。

#### 3 資料の編集及び事前研修会

△今年のようなPDFデータのやり取りで十分だと思う。

●部員数の減少やコロナ禍により地区内で十分な研修が行えず、一部の先生だけに頼ってしまった。

#### 4 資料の製本や配布 等

●授業までの事前検討や準備、動画編集等が、一部の先生任せになり、申し訳なく思います。

### Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

[新川地区]

#### 1 運営分担や日程

●役員の分担はあったが、打ち合わせが難しかったので富山市の先生方に負担をかけた。

[砺波地区]

#### 1 運営分担や日程

●オンラインによる会議は初めての経験であり、事務局や富山市の先生方には苦勞をかけた。ネットの回線スピード等を考えると、分科会は各地区で行ってもよかったのではないかと思われる。その方が、準備やリハーサルがしやすかったと思われま。

●運営が富山市の部会が中心となってくださいましたが、当日の動きや分担が詰められていなかった部分がある。当日の進行や記録者の分担等、マニュアルだけのぶっつけは難しい。

△今回は専門のサポートの方がついていただけのおかげで、なんとかオンラインでの研修を実施できましたが、今後、もう少し持続可能な方法を考えていかななくてはいけない。

#### 2 研究授業

○編集された授業は分かりやすくよかった。（ただ、やはり生の授業がよいと感じた。）

#### 4 研究協議

●オンライン上ではなかなか盛り上がらないことが確認された。

### Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

[新川地区]

●純粋な技術部員が下新川にいない。（カ指、カ指、教頭（専門は理科））

△次年度に向けて研究の方向性を定めて、新川地区（三市二郡）で授業研究に取り組みたい。

△コロナ禍での東海・北陸大会が成功のうちに終わったことはとてもよいことだと思う。しかし、これから先のことを考えると、東海・北陸大会の在り方も考えていく必要があると思う。例えば、リモートで参加という形をとれば、運営費等も縮小でき、資料にしてもPDF等で配布、各自で印刷すると、資料代も安くすることができると思う。現状に合わせて、いろいろな形を模索していく必要がある。

[富山地区]

●オンライン公開授業は、コロナ禍でのよいチャレンジではあったが、来年度の東部・西部大会で運用できるかといえ、機材やインフラ等の準備にハードルが高過ぎ実践するには難しい形態であった。

△指導案検討の時間が少なかった。そこで、前年度各学校訪問でトライした授業指導案を4月に持ち寄り、その中から研究を深めていくものを選び、会員全員で授業者の指導案検討を行っていくことを検討していきたい。

△会員数が減少しており、どの地区も運営が困難であることから、隔年で東部・西部大会を実施する必要がある。

[高岡地区]

△部員数の減少と年齢構成の偏りなどを考慮すると、今後の研究大会の持ち方など十分に検討をしていく必要がある。

[砺波地区]

△西部地区大会の回り順の見直しをお願いしたい。

## <技術・家庭（家庭）部会>

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

<東部地区>

- ・継続して行われている研究内容が深くなっていると感じられた。また、前はなかったタブレットも活用されており、アナログとデジタルが融合されていたことが生徒の意欲的な取組につながっていたと感じた。
- ・ICT、思考ツールや付箋の有効活用が勉強になった。
- ・新学習指導要領に向けた題材構成や評価についてとても参考になった。
- ・和食のよさについて生徒たちが活発に話し合いをしていたように感じた。それは、1次からの授業で和食ということを考えさせ、常に思考ツールであるフィッシュボーンに学んだことを積み重ねていった成果だと思う。
- ・発表では、写真での活動の様子が詳しく分かるように資料・パワーポイントが作られており、とても分かりやすかった。
- ・3年間の学びを通じて様々な題材で身に付けさせたい力と身に付けた生徒の姿を具体的にイメージしながら課題を設定することの大切さを改めて実感した。
- ・日常食の調理に、和食の良さを継続的に取り入れることによって、生徒の中にきちんと6つの視点が積み重なっていることが分かった。
- ・実習後の振り返りとして、しっかり考える時間を設けることの効果を感じた。思考ツールやジャムボードの使い方が効果的であった。
- ・新学習指導要領になって、不安に思っていた指導と評価の工夫について、具体的な例や指導計画等を示していただき大変役に立った。
- ・3年間の学びを通じて様々な題材で身に付けさせたい力と身に付けた生徒の姿を具体的にイメージしながら課題を設定することの大切さを改めて実感した。
- ・フィッシュボーン、付箋で視点を明確にし、班から個人、個人から全体へと改善するための手立てや工夫の考えが広がった。
- ・クロムブックの活用によって、班の意見、クラスの意見が同時に共有でき、考えが深まった。主体的に学ぶのに効果的だった。

<西部地区>

- ・体験的・実践的な活動を行うことで、効果的な授業が行われていた。
- ・事前の授業撮影で授業者には負担が大変大きかったと想像できる。映像では班の話し合いでの生徒の発言もよく聞こえ、生徒の思考の流れがよく分かった。授業中に高齢者に対する理解が深まっていくのが見えた。
- ・高齢化社会の中、高齢者理解や高齢者への接し方、尊厳を知ることは中学生には難しいが、大切なことだと思う。道徳の時間で尊厳について学習してから、家庭科で理解や接し方を学習するのもよいと思う。
- ・高齢者の買い物動画は、生徒に考えさせたいことを踏まえて上手に作成されていた。1人1台の学習端末の活用を進めることで、生徒が自分のペースで考えや理解を深めることができていた。
- ・コロナ禍での地域との連携の在り方がとても参考になった。
- ・新学習指導要領における内容に取り組み、参考にするべきことが多かった。特に、コロナ禍で活動が制限される中で、できること、取りやめたことが話題になり、参考になった。
- ・ポートフォリオを使用することで、学習の流れと評価が一目で分かり、次へとつなげやすいのだと分かった。
- ・キャッシュレス社会に対して、中学生は三者間契約の仕組みが分かっていないし、高齢者は上手に使いこなすことができないと分かったので、丁寧に学習を進めていく必要性を感じた。
- ・生徒の考えの変化が分かり、評価につながるようなワークシートが必要だと感じた。
- ・指導案作成時の「指導と評価の計画」の項目についての考え方や表記の方法等について参考になった。指導助言でも、詳しい説明が聞けて大変参考になった。
- ・新学習指導要領に移行したので、改めて小中高の連携が必要となった。アンケート等で実態把握をするなどして題材を選ぶ必要性を学んだ。
- ・1人1台端末を活用した買い物動画は、自分のタイミングで視聴することができるだけでなく、普段、高齢者と関わりの少ない中学生がイメージしやすく、自分の考えをまとめるで効果的であった。

- ・教師の「実際にできるか。」という切り返しの発問によって、生徒は本音を語った上で、本当に自分にできることを考えていた。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

### <東部地区>

- ・教師の発問や切り返しなどの言葉や話し方のクセなど、自分自身も含めて気を付けなければならないと感じた。
- ・生徒一人ひとりの実態や学校による実態の差を考えると、生徒の意欲を継続させるための題材の設定や資料の提示を熟考しなければならないと改めて感じた。特に「生活の課題と実践」についての取組は、これからの世の中に必要であり、総合的な学習の時間ともつながる題材と思うので、互換性が大切ではないかと感じた。

### <西部地区>

- ・技術・家庭科については、今年は、東海北陸地区中学校技術・家庭研究大会を兼ねるため事前のビデオ撮り、編集等の作業が入った。そのことによって、ビデオ業者との連絡を何度もとったり、編集作業に出向いたりと莫大な時間を要し大変であった。
- ・生徒の発言から、授業前後での生徒の変容が分かった。今後は、それを教師が把握できるようなワークシートの工夫をしていく必要がある。
- ・「困っている高齢者にどう関わるか」という視点だけでなく、元気な高齢者に対してどう関わっていくかについても考えさせる必要があるのではないか。
- ・コロナ禍において、体験活動やゲストティーチャーなどに制限がある。地域の施設や人材とどう連携していくかが課題である。

## III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

### 1 会場郡市、会場校の決定

- ・どの郡市も少ない部員の中でやりくりしなくてはいけないので、今後しばらくの持ち回りと研究内容を調整していく必要があるのではないか。

### 2 地区研究大会

### 3 資料の編集及び事前研修会

### <西部地区>

- ・指導案の提出日が急に2週間早まったが、成績処理の時期と重なりとても苦労した。また、先の見通しがもてず、何をしておいたらよいのかも分からなかった。コロナ禍で会合もままならず仕方のない面はあるが、もう少ししっかりした計画があれば慌てずに済んだのではないかと思う。

### 4 資料の製本や配布 等

- ・指導案は、今年度のように郡市部長にデータで送り（郡市によっては共通の中教研フォルダにいれる）、各自が印刷・製本したらよいと思う。

## IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

### 1 運営分担や日程

- ・各郡市の発表原稿のすりあわせや、富山県の発表原稿の確認等、しかるべき事前研修が必要だった。（指導主事先生にお見せする前に）事務局の負担が大きく、役割分担をしっかりと行うべきだと感じた。
- ・ビデオ撮り、事前・事後の編集打ち合わせ、編集作業等の負担が大きかった。

### 2 研究授業

### <東部地区>

- ・オンライン開催、ビデオ視聴スタイルが見やすく、よかった。来年度以降も継続を。
- ・コロナ禍によりオンラインで開催されたことは、この時代に合った効果的かつ今後の研究大会のあり方の提案ができたのではないかと思う。ビデオ編集でのまとめが見やすかった。

### <西部地区>

- ・プロの方に撮影や音響を受け持っていただいたので、スムーズな運営ができた。

## V 各研究部会独自の意見や要望

### <東部地区>

- ・新川地区では、家庭科部員の退職者が増え、講師・再任用が増えている。次の次の授業者がいなくなってしまう現状である。今後も学級数の減少等で県内の家庭科教員の数が減ることも予想され、研究大会の行い方の検討も必要だと思う。
- ・正規の家庭科教員が減少している中で、研究大会を東西それぞれで行うことはそれぞれの地域で負担になっているように感じる。研究大会のモチカたを見直す必要があるのではないかと思われる。（県で1授業展開を令和5年度、遅くとも6年度からできないか）
- ・正規の教員の人数が少ない、研修する機会も少なくなっている中、今後でもできる範囲の研修の方法を探っていくことも必要である。人数が少ない分、授業者や発表者の負担が大きい。

## <西部地区>

- ・家庭科部員の人数が年々少なくなっていくことで、今後の研究の在り方も考えることが必要かと思う。

## <英語部会>

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- 教師と生徒、生徒同士のやり取りが多く、テンポのよい対話的な授業であった。（新川地区）
- 生徒がALTに役立つ情報を伝えようという課題意識を明確にもって取り組む姿がみられた。（富山地区）
- 学習専用端末の活用、ICTの活用を提案した授業であった。（高岡地区）
- 指導助言が研究授業の内容を踏まえたものであり、分かりやすかった。授業と評価についても教えていただけたので勉強になった。（砺波地区）

### II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 新学習指導要領における言語活動については、活動前に例を示しすぎず生徒に考えさせ、気付きを促し取り組ませることで、思考力・判断力・表現力等の育成につながる。
- 部会協議、グループ討議の時間が短い。
- 各郡市が持ち回りで発表するのは、多忙化解消のためにやめた方がいいのではないかと。

### III 大会前の諸準備、諸会合について

- 1 会場郡市、会場校の決定
  - ・研究授業は、学校でまわしている郡市と人でまわしている郡市があり、人であてると会場校が変更になる場合もある。
- 2 地区研究会・・・今年度中止
- 3 資料の編集及び事前研修会
  - ・コロナ禍で事前に指導助言者にメールでアドバイスをいただいたが、来所して直接指導をいただいた方授業者の意図を伝えた上での助言につながってよいのではないかと。
- 4 資料の製本や配布等
  - ・今年度のように、各学校にデータで送り、印刷してもらう方法がよい。

### IV 研究大会当日の運営や内容について

- ・アドバイザー配置の中止が決定したのが大会の1ヶ月前で遅かった。予定していた部会協議②を中止したり、大会の開始時間を遅らせたりする連絡を指導案の印刷配付の直前になって部会責任者が会場校、中教研事務局、指導助言者等と連絡を取り合う必要があり、煩雑だった。

### V 各研究部会独自の意見や要望

- ・コロナウィルス感染防止の観点からの実施方法の変更でしかたないが、全部員が何らかの形で参加できる研究大会の実施を検討したい。
- ・ALTとの授業も参観できるとALTの活かし方を研究できる。

## <道徳部会>

### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

#### 【東部地区】

- 全クラス授業公開ということで、学校あげての研修の機会・取り組みとなっており、指導者同の意見交流が活発たことがよかった。
- 様々な教材（項目）の研究授業があったため、各校での実践の参考になった。
- 教師が資料を的確に読み込むことで、価値に迫ることのできる発問設定や適切な問い返し・切り返し発問が設定でき、考えを深めることができた。
- 生徒の発言を大切に、誰かの意見に付け足したり、同じ意見であっても生徒自身の言葉で語ったりすることができていた。
- 構造的な板書（時系列や相関図）を用いることにより、子どもたちの意見が整理され、より深く考えることができていた。
- 個人で考える時間をしっかりと確保した後にペアやグループで意見交流させていた。それが全体場で発表するときの生徒の自信にもつながっていた。
- 生徒一人一人の発言やつぶやきに丁寧な問い返しが行われていた。
- ワークシートを用いて考えさせる発問が必要最低限であった。その分、中心発問で自分の考えを整理するための時間が十分に確保することができていた。
- 部会協議では、参観者が「協議シート」に授業に関するコメントを書き、授業者に渡すことで、感想や意見を十分に授業者に伝えられるよう配慮されていた。
- ICTを活用した授業や構造的な板書の工夫をすることによって、生徒の思考の整理につながっていた。
- ペアやグループでの活動が取り入れられており、自分の意見を持ち、意見を交流する場面が設定されていた。

### 【西部地区】

- 板書は電子黒板と黒板を活用していて分かりやすかった。
- 順を追って話をしていくのではなく、気になった所に線をひかせ、どこに線をひいたか発表させることで、話の流れを全体でつかんでいく方法がよかった。
- 登場人物同士の関係や心の動きが分かるような構造的な板書になっており、生徒の思考の手助けになっていた。
- 授業では、「導入」におけるタイトルの続きを考えさせる活動が、生徒を主体的に学習に参加させるために有効であった。
- 登場人物の心情に迫る補助発問により、生徒が道徳的価値について考えを深めることができていると思う。私たちが今後道徳科の授業を行っていくうえでたいへん参考になった。
- 研究協議では、KJ法を意識した協議が行われ、これからの授業のあり方を考えさせられるよい機会となった。
- 小グループでの話し合いを適宜入れることで、生徒が本音で語り合う場面が見られた。
- 1つの会場校で2部会が開催されたため混乱が心配されたが、会場校の細かい配慮もあり円滑に行われていた。

## II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

### 【東部地区】

- 生徒同士の対話を促がすための教師の働きかけの仕方や生徒の考えを深く掘り下げて発表させることのできる繰り返し発問の工夫が必要。
- 発問の十分な吟味、ワークシートの活用方法の検討、終末のまとめ方の工夫。
- 生徒の発言を予想した構造的な板書、および、板書での生徒発言の位置づけ方の工夫。
- グループワークやペアでの意見交換などの適切な活用。
- 授業中、教師がどうしても話しすぎる傾向がある。
- 発問をどう工夫し、生徒の言葉でどのように授業を組み立てていくかをさらに研修する必要がある。

### 【西部地区】

- ねらいに到達するための発問の工夫が必要であった。
- 繰り返しや問い返しの発問について、どのようにしていくか考える機会があるとよい。
- ねらいに迫った質問にするために、何を中心発問にすべきか議論する場があってもよいのでは。
- 生徒の心の中にある葛藤を引き出す発問や展開があればよかった。
- 多面的・多角的な考え方を引き出すための授業の展開や発問の工夫が必要である。

## III 大会前の諸準備、諸会合について

### 3 資料の編集及び事前研修会

- △新型コロナウイルス感染対策のため、指導案の事前検討がしづらかった。集まることができない場合、例えば教材を早めに決定し、各郡市でその教材で実践をしてもらい、その実践例や反省をもとに（データ送付など）、それらを持ち寄って指導者の参考にしてもらうとよい。
- 富山市道徳部会の指導案検討に参加させてもらえたことで、今回の研究大会の授業を見る視点もはっきりして、有益だった。
- 指導案作成後、市内のいくつかの学校で同じ指導案で授業を行い、研修できたのはよかった。
- コロナ禍ということで、事前の研修会が中止となり、砺波地区の先生方にすべて任せきりになった。

### 4 資料の製本や配布 等

- 資料をPDFにする際は、印刷されたものをPDFにするのではなく、もとのデータをPDFにしたほうがきれい。
- △PDFで送信し、各学校で会員が製本するやり方は今後も継続してほしい。

## IV 研究大会当日の運営や内容について

### 1 運営分担や日程

- △受付が少し曖昧になってしまったと感じるため、受付の位置を明確にしたい（生徒の活動もあり、仕方のない部分もありますが）
- やはり、授業についての協議会がないことがもったいないなと思った。
- 指導案検討→授業実践→事後研の流れで研修できる大会運営をするにはどうすればいいか？
- △コロナの状況で、運営や日程のあり方で配慮されたことは十分承知していますが、授業力向上アドバイザーの講話が聞けなかつたことは残念であった。

### 2 研究授業

- せつかくの研究授業であるので、指導主事の先生方からのコメントや参観者と指導者等での意見交換があった方が、授業後の記憶が鮮明な状態で互いの研修が深まるのではないかと。
- ビデオ中継の会場が、隣の部屋であったため、時間差で聞こえてくる隣の教室の音が気になる生徒がいたのではないかと。



- ビデオ中継は、タブレットから音を拾っているのですが、教師の声はわりと聞こえるが、生徒の声がほとんど聞こえなかった。別売りの集音マイクを設置するとよい。

#### 4 研究協議

- 指導助言は、指導案の内容に関してだけでなく、実際の教師の発問や発言に即した具体的なものであったので、より参考になった
- 協議会でグループ協議を入れていただけるとありがたい。もっと話しやすく、活発になったと思う。
- 協議会の進め方（KJ法）を事前に周知し、協議会前に整理すれば、意見共有しやすくなったのではないかと。協議の内容を焦点化できたのではないかと。例えば、カードを各自が持ったままではなく、書けたものをどこかに貼りだし、全員が見えるようにしてから協議を始めてもよかったのでは。または、全員が順番にカードに書いたことを発言するように指名してもよかつと思う。
- 2つの授業が開催されていたので、参観していない授業や協議会の内容を共有する場があってもよいと思った。
- ねらいに迫った質問にするために、何を中心発問にすべきか議論する場があってもよいのでは。
- 協議会において、「部会協議」と「指導助言」の時間配分を示していただけると、さらに分かりやすかつと思う。

#### V 各研究部会独自の意見や要望

- 今後の研修の在り方として、研究授業はやはりその場で生徒の変容を感じながら参観すべきと思うが、例えば指導案検討や事前研修にzoom等で勤務校から参加するなどできるようになると、ありがたい。
- 部員が研究大会に参加できなかったことが残念。
- △協議会では、学習専用端末や電子黒板を使用した情報共有をすることもできると思った。
- △発問や価値に迫るための工夫などの研修会があればよい。
- △学力向上アドバイザーの講義がなくて残念。

### <特別活動部会>

#### I

[東部地区]

- スプレッドシートを活用したことで、項目別に意見が集約されていた。
- 各班の意見が○×で表示されていて視覚的に分かりやすかつた。
- 授業中の生徒の様子が終始真面目で落ち着いていた。日頃の学級経営の賜物。
- 全体の司会、進行や各班での司会がスムーズに行えるように、事前にそれぞれのリーダーに十分に指導をされたことが、生徒の姿勢から伝わりました。
- 合唱の練習方法を選択していく中で対立する意見が生まれ、生徒たちはどのように折り合いをつけるべきか互いを思いやる場面が見られ、合意形成を図る授業として適切な課題設定であったといえるのではないかと考えます。
- △クロムブックの使用について、授業冒頭の入力をする場面が事前に行われていればより話し合い活動に集中することが出来たと思います。しかし、入力する場面を見せていただいたことで、生徒がどのようなところにつまずきやすいのか実感をもって学ぶことができました。授業の区切りとしては、再考する余地がありますが、研究としてはよい場面を見せていただきました。
- 意見の整理や集計を行う際にクロムブックの活用は視覚的にもわかりやすく有効であったと思う。
- 生徒の意見の変容がリアルタイムで感じることができる研究授業であった。
- 自己の個性を見つめ、大切にしていこうとする意欲や態度を育むための工夫として、「心惹かれるもの」といった活動で自分と向き合うことに加え、本時で行った「班員からのメッセージ」の活動が他者の多様な価値観を受け入れ、意思決定することにつながっていたと感じた。
- 導入の部分で学級目標である「一人一人の色を輝かせよう」を意識させ、クラスが必要感をもって学習に取り組む雰囲気を作られていた。
- メッセージをただ渡すのではなく、発表させたことがよかつたと思う。自然と拍手が起こり、笑顔あふれる温かい雰囲気が素敵だった。クラスの一員としての有用感を感じる活動であったように思う。
- 場面設定をしたことも有効であったと感じた。具体的な行動目標につなげることは容易ではないので、自分らしさを他の場面に応用できる方法を考えさせることにつながっていたのではないかと。
- 活動前に教師自身についての具体例の提示→生徒が活動内容を理解し易い。
- 「他者にされて嬉しかつたカード」を渡すときに、一言添える→生徒同士のコミュニケーションの活性化、言葉で伝えることで話し合いが深まる。
- 振り返りシートを見ると、授業を通して感じたことを適切な言葉で書くことを難しく感じる生徒がいた。授業内で一人一人と話ししてみると深まっていた内容が、書くことで言葉が感じたことよりも簡潔な内容で終わってしまった生徒への対応が不足していた。
- 協議会は、少人数で議論しやすかつた。
- 少人数での開催となつたので、授業ごとに発言しやすいつ協議会になっていた。
- ICTを活用した授業について提案され、生徒が実際に使っている様子や教員が使う様子を具体的に見学することができた。

- 今年度、コロナ禍で少人数での研究授業の参観・部会協議であったが、少人数であることのメリットを生かし、普段の授業実践における成果や悩み等を話し合うことができ、充実した協議会になったと思う。
- 指導助言についても、特別活動における合意形成の在り方を本時の授業に照らして話して頂いたり、ICTの使い方の是非についても言及していただいたりして、今後の授業実践に生かせるものになった。

[西部地区]

- 生徒にとって必要観のある題材（受験、SNS）だったので自分事として捉えて考えていた。
- 3学年の研究授業では、ICTを効果的に利用した進路についての学習であった。中でも、卒業生のインタビュー動画は生徒の関心を非常に引き付け、進路についての学習を自分自身の課題として捉えるのに大変効果的であった。
- タブレットを用いた工夫がされていた。（Teamsの活用）
- 授業の前に事前アンケートを行い、導入でグラフ等を見せたことにより、生徒たちは興味や関心を示し、活動への意欲を高めていた。
- 話し合い活動では、効率よく活発な意見交換を行うにはホワイトボードを活用することが適しており、クラス全体に発表する際も黒板に掲示しやすく、意見をまとめやすい。
- 3年の授業では、先輩のビデオを流し、生の声が聞けたことで、進路決定に向け、大切なことを考え直し、深まりをもたせるには、十分に効果があった。
- 3年の授業では、進路決定に関して、ダイヤモンドランキングを用い、自分の考えをビジュアル化するだけでなく、他の生徒の考えや先輩の考えを確認するためにICTを効果的に活用していた。
- 1年の授業では、合意形成に至るまでの過程として、個で考え、グループで協議し、さらに別のグループで話し合いをすることで多様な考えを知ることにつながった。
- 他学年の協議内容を共有する時間がありよかった。
- 研究授業を2会場に分けて行い、協議会はそれぞれの会場で、付箋紙を利用したフリーカード法で、授業の成果と課題について話し合った。協議後はグループ毎に話し合った内容を全体で共有した。その後、別会場との交流が行われた。授業者が授業について簡潔に説明し、協議会で話し合われたことをグループの代表が発表した。参観していない研究授業についても、授業者による自評、グループ毎の発表を聞くことができ、学ぶことが多い大会となった。
- 研究授業当日は、各校から原則1名の参加となったが、特活部会には大きな影響はなかった。
- 2会場の協議会で話し合った内容をもう一方の会場へ行って発表するという方法は、非常に画期的でよかった。（もう一方の研究授業の内容について、指導案だけでは理解しづらいため、具体的な活動の様子を知ることができた。）
- 協議会では、小グループによるKJ法を活用した協議形式をとったことで、参加者全員が、主体的に研修をすすめることができた。
- 個々の生徒のつぶやきや活動などオンラインでは、伝わりにくい部分が多いが、コロナ禍の中、会場での参観形式をとっていただいたことで、授業後の協議会も、活発に意見交換ができた。

## II

[東部地区]

- △本時の授業以降にどのような練習に取り組んでいくのかを具体的に決めるとよい。
- △個別練習をする是非を考えさせたかった。条件を設定することで新たな案になる。
- △ねらいに沿ったクロムブックの活用になるよう今後も考えていくのがよい。
- △授業の終わりに教師のまとめで、生徒のよさを認める言葉がより具体的にあればよかったです。特に、合意形成に関係する場面など授業の目標に近づくような生徒の言動を取り上げることで、学級全体の話し合いのスキルが向上すると思います。
- △クロムブックを使い慣れていくことを前提として、どのような授業を展開できるのか、またこれまでの授業の中でクロムブックに置き換えることができる場面の事例の必要性を感じました。その上でも、今回の授業は有意義であったと思います。
- △合意形成で取組を決めた際には、「これでよいか」といった確認ができると生徒の意欲も高まるため、必だと感じた。
- △1学年の研究授業は、合唱の練習についてはあったが、取り組む姿勢について話し合うのもよかったのではないかと、指導助言をいただいた際に思った。
- 意思決定した行動目標が今まで行っていることよりも高次元なものとなおよいので、教師からの助言や継続的な振り返りが必要になってくると感じた。
- △「自他の個性を理解し、学級生活に生かし合うことができる」という目標は、この授業だけで完結するものではないので、今後この授業をどのように関連づけて、長期的に生徒の活動につなげていけるかが重要である。
- ICTの活用の仕方を具体的に知ることができればよいと感じた。今回は、参加者が少ないということもあり、ICTに詳しい人も少なかったので、上手な活用の仕方を協議できなかったように思う。
- △研究授業の参観については、今後コロナ禍であるなしに関わらず、オンラインでの研修を検討すると良い。成果を多数で共有できるだけでなく、今後の授業実践に生かすことができる。ただし、部会協議については、話し合うことも大切なので、要検討。

[西部地区]

△班か部会全体で各校の取り組みなどを共有する時間があってもよい。

※今回のテーマであれば、「SNS」や「受験」についての特活での取り組み、またコロナ禍での特活をどのようにやっているのかなど、研究授業の主旨とは少し離れるが集まって話せる唯一の機会だから意味があると感じる。

●指導案検討が夏季休業中に行われたため、準備の時間を多くとることができた。しかし、指導案検討の前に、生徒の実態を把握するためのアンケート等がとられていなかったため、授業展開やねらいが生徒の実態に合っていたのか、見直さなければならない。

△コロナ感染症の対応としても、当日の授業は2部会あればよいと思うが、実施する学校の負担は大きいと思われる。

△夏休み中の地区研究会がなくなり、運営面では、砺波地区の先生方に大変負担がかかったのではないかなと思う。

△パワーポイントでグラフ等を作成するにあたり、配色や文字の大きさ、書体等に配慮する必要がある。

△生徒の話合い活動を自主的に取り組ませるには、司会者との綿密な打合せ、シミュレーションを重ね、リーダーを育てる必要がある。

△1年の授業では、アンケートの集計をスクリーンに大きく提示し、課題共有を図っていたが、もう一歩深く掘り下げる指導があれば、個人の考えをしっかりともち、活発な話合いにつながったのではないかと考えられる。導入の大切さが感じられた。

△3年の授業では、自分なりの進路決定の根拠をさらに深く掘り下げるために、時間配分を工夫して、他の人の考えを知る機会を設けると、自己決定が確かなものになったのではないかな。

### III

#### 1 会場郡市、会場校の決定

[西部地区]

○開催方法が、なかなか決定しなかったが、会場校の研究大会の開催に向けて授業会場の確保、感染防止対策に最大限協力していただいた。

#### 2 地区研究会

[西部地区]

●コロナ禍で全体で開催できなかった。授業校や研究地区にお任せであった。

#### 3 資料の編集及び事前研修会

[東部地区]

●幹事が各学校で実践をして指導案を再検討できればよかった。授業者に任せた部分が多かった。

[西部地区]

△直前の事前研修会がなくなってしまったため、指導案の検討をメールのやりとりで行ったが、メールでは一方的に気付いたことや間違いを指摘するだけとなるため、授業者の意図や考えを汲むことができない。双方向のやりとりや他の先生の意見との調整のためにも、ZOOM等を利用して、同時に話すことができる方法を取るとよいと考えた。

●コロナ感染症の拡大で、事前の研修会が十分にできなかった。

○西部地区大会では、コロナ禍での準備等を砺波地区の先生方で行っていただき、大変感謝しています。

#### 4 資料の製本や配布 等

[東部地区・西部地区]

○メールによる資料配付の形でよい。

### IV

#### 1 運営分担や日程

[東部地区]

△コロナ感染が急拡大して仕方ないところもあったが、開催、参加者等は、早めに決定した方がよい。

[西部地区]

△小規模校においては、同日に道徳、特支の研究大会が開催されると生徒対応が難しくなるので、参加者を増やし、午後、生徒を放課するとか、開催時刻を遅らせる検討をして欲しい。

#### 2 研究授業

[西部地区]

△若手教員など参加者を増やし、研修の機会を設ける。

#### 3 研究発表

[西部地区]

○特別活動部会では研究発表を行わず、研究協議の時間を多くとることができた。

#### 4 研究協議

[西部地区]

- 2会場に分かれて協議を行ったが、交流発表会を行うことで、もう一方の授業についても様子をつかむことができ、学びが多かった。

#### 5 授業力向上のためのアドバイザー講義

[東部地区]

- △今年度は、行えなかったが、毎年あればよい。

### V

- 今回は、東部地区は、各部会から代表者のみの参加であった。部会協議は少人数ではあったが、限られた時間の中で十分議論することができた。
- 今回のように、ICTを活用した授業はとても参考になるので、今後もしできる限り行っていけるとよいのではないかと思う。
- △研究大会研究授業の参観や部会協議への参加、指導助言を聞くことは、これからの授業実践に大きく役立つものと思います。本年度、本市中教研特別活動部会では、会員6名のうち5名が30代の先生方で、どのように学級会を進めていけば良いかという特別活動における基本の部分で協議会が進んでいたように思います。なので、できるだけ多くの先生方に研究大会の授業の参観等をしていただくためにも、オンラインでの研究大会への参加が可能になると良いのではないかと思います。

### <特別支援教育部会>

#### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- ・ICT機器を活用することで、個に応じた指導が行いやすくなっていると感じた。(東西)
- ・1人1台端末の活用が、書字や他と関わるのが苦手である生徒の苦手克服のために有効である。(東西)
- ・1人1台端末の機能を生かして、コミュニケーションをする、考える、発信する学習に意欲的に取り組めるような手立てが授業に組み込まれておりICTの活用や発展性が見える授業であった。(東西)
- ・役割分担を行い意図的に協働作業を仕組むことで、生徒間の意思疎通を円滑し、協力関係を深めることができると感じた。(西)
- ・知的障害学級と自閉症・情緒障害学級の2つの研究授業が行われ、それぞれ分かれて協議できたため、参加者は自分の担当学級にあった学びを得ることができた。(西)
- ・感染症対策のためリモートで授業を参観したが、自情級の生徒の精神面への配慮ができた。(東西)

#### II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開催方法や参加人数の決定が遅れたことは、仕方がない面はあるが、対応する授業者や会場校には迷惑をかけた。(東西)
- ・ビデオの視聴には毎年音声の聞き取りにくさが指摘される。改善が試みられているが、今回ももう少し明瞭に聞こえるとよかった。ピンマイクの使用等工夫がある。(東)
- ・今回のように参加者を制限した場合、参加できなかった先生方との情報の共有をどのようにすればよいか考えなければならない。(東)
- ・今年度は、参加者を絞ったが、オンラインによる授業配信も検討してはどうか。(東西)
- ・授業の配信や録画再生では、分かりにくい部分や聞き取りにくい部分があるので、あらかじめ授業を撮影しておき、聞き取りにくいところや分かりにくいところに授業者が解説を入れながら進める形式で授業を披露するやり方もあるのではないか。(東西)
- ・2つの授業を配信するため、準備の手間や当日の機器の操作の増員など当日役員の負担が大きくなった。(西)

#### III 大会前の諸準備、諸会合について(特に問題点や要望があれば)

##### 1 会場郡市、会場校の決定

- ・特になし

##### 2 地区研究会

- ・オンラインでの開催はできないだろうか。4地区各教科で行うことは、大変だと思うが・・・。

##### 3 資料の編集及び事前研修会

- ・資料の編集：・特になし。
- ・事前研修会：・西部地区は行った。東部地区は行わなかった。必要に応じて行う。

##### 4 資料の製本や配布等

- ・メールによる資料の配信、各校での印刷は、合理的である。

#### IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

##### 1 運営分担や日程

- ・参加者を絞ったため、時間を遅らせることができたと思う。（西）
- ・コロナ禍の中、最善の配慮がなされていた。
- ・生徒を学校に残して参加しなくてもよいように教科部会と同じ日に行ってほしい。（東）

##### 2 研究授業

- ・2つの授業を配信し別室で視聴できるようにした。配信の準備の手間や当日の機器の操作など砺波地区では役員を増やして対応した。（西）

##### 3 研究発表

- ・行っていない。

##### 4 研究協議

- ・今年度のように、障害別のグループ討議を継続して行ってほしい。（西）
- ・今年度は参加者が少なかったが、障害別にグループ討議を行った方がよい。（東）

##### 5 授業力向上のためのアドバイザー講義

- ・新型コロナウイルスの影響で、開催できなかったが、次年度は行いたい。

#### V 各研究部会独自の意見や要望

- ・VTRを止めて授業者が捕捉や解説を加える方法も検討してほしい。（東）
- ・今年度は参加者の制限があったが、来年度は全員が参加できるようになればよいと思う。ただし、各校の事情もあるので、柔軟な対応をお願いしたい。
- ・東部西部とも地区の範囲が広いので、開始時刻を遅らせることも検討してほしい。
- ・新川地区で学校の統合があり、各郡市の学校数が変わった。新川地区におけるR10年度以降の授業担当のローテーションを考えていく必要がある。

#### <保健部会>

##### I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- 健康づくりノートや健康診断等の統計結果から市全体の実態把握を明確にし、データを蓄積することで健康課題が焦点化されていた（R）。
- Rを生かし、「健康づくり指標」を立て、養護教諭と栄養教諭が協力し合い、目標に向かって組織的な取組が行われていた。数値化することで、客観的評価となっていた（P D C Aサイクルにつながっていた）。
- 市内共通の課題に対して養護教諭と栄養教諭の専門性を生かしたスライド資料を作成し、各校の実態に合わせて授業や集会等で活用することができた。教職員への働き掛けにも有効であり、市内の生徒が同様の指導を受けることができ、効果的であった。
- 実態把握がなされているため、コロナ禍等の突然の状況下でもすぐに健康づくりに関わるタイムリーな指導（免疫力を高める睡眠と栄養バランス）を行うことができていた。
- カリキュラム・マネジメントシートを作成することで、学校全体で組織的・計画的に見通しをもって取り組むことができた。また、学校保健年間計画に矢印を引くなど、現在あるものを利用して取り掛かってみる方法等を知ることができた。
- 市全体での取組は、一人職の養護教諭にとってよりよい教材づくりや指導ができ、負担の軽減から今後の働き方改革にもつながると思われる。

##### II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- カリキュラム・マネジメントシートについては、作成の負担や教職員間、学校組織での取組に課題や困難さを抱えている養護教諭もいる。活用できるよう研修を重ねていきたい。
- 音声付きスライド資料やワークシートは大変参考になった。できれば、各校での実践カードや保健だより等の補足資料も見かけた。
- スライド資料は画面が変化していくため、ワークシートの活用や板書等に残す工夫が必要である。
- 学級での指導において、生活の振り返りやスライドによる説明に加えて、生徒同士が関わり合う場（意見交換等）の工夫があればもっとよかった。
- 指導後の意識の継続は難しい。生徒がより自分事として捉え、実生活で実践していくにはどうしたらよいらうか。

△一人タブレットの普及から、タブレットを利用した指導やコロナ禍における学校保健委員会のもち方にも工夫できそうである。

△家庭との連携の在り方についてホームページを活用した情報発信、ホームページ上での入力フォームを活用したコミュニケーションは、今後より重要になると考えられる。

△今後、ICTの活用が進み、それらを上手く使って指導していくことが求められると思う。しかし、自分自身の知識・技術が足りず、不安を感じている。研修、学んでいきたい。

### Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について

#### 1 会場の決定

○速星公民館は、よかった。富山市内が集まりやすい。次年度も速星公民館がよい。（オンラインでの可能性がある場合は、婦中ふれあい館か富山県総合教育センターがよい。）

#### 2 資料の編集及び事前研修会

△事前研修会が中止になり、無事に開催できるか不安があった。しかし、実施できたということは、あえて事前研は、必要ないのだろうか。または、一部の担当者の負担が大きかったのか。検討し、運営を簡略化する時期に来ているのではないか。

#### 3 資料の製本や配布

○今後も資料はデータ送付し、各自で印刷・持参する方がよい。

●資料をPDFで一つのデータにまとめてほしい。（PDFソフト・ネット環境等が必要。）

### Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

#### 1 運営分担や日程

○提案発表、部会協議、移動・休憩等、時間配分がちょうどよかった。

○事前資料のおかげでスムーズに運営ができた。

○全体会場では、会員用の机はなく、グループの形にしやすかったり片付けも短時間で出たりした。椅子だけでよい。

△会員への大会当日の日程や会場等の開催要項をもう少し早めに知らせてもらえると助かる。

●アドバイザー事業の有無によって日程が大幅に変わる。実施の場合には、時間設定が厳しく、提案発表や部会協議の軽減を検討していけるとよい。

#### 2 提案発表

○提案資料が多すぎず、精選されていてよかった。

△オンラインの発表配信、チャットでの質問等の研究大会があってもよいのではないか。

#### 3 部会協議

○事前に資料に目を通し、視点に基づいてワークシートに記入して参加する方法は、提案発表を深く理解することができ、グループ協議では各々が自分の意見をもって活発に話し合うことができた。

○事前に2つの視点が示されていたため、意見交換が活発だった。時間がもう少しほしかった。

●司会者が意見をまとめて発表するのは負担が大きい。グループ協議の最後に5分程度、グループの意見をまとめる時間があると軽減できるのではないか。記録者が発表してはどうか。

●部会協議中に出た質問や疑問点等に対し、当日の質疑応答時間内に聞くことのできなかつた内容については、後日回答という形で聞くことができるとよい。

### Ⅴ 保健部会独自の意見や要望

○感染症対策が十分されており、安心して参加することができた。

●発表する郡市は、その準備期間から続く負担が大きい。提案発表だけでなく、講演や各郡市での研究の取組を簡潔に報告し情報交換するなど、改善が図られるとよい。

●下新川・黒部・魚津地区の代表を1名にしてもらいたい。

●2年連続で東部地区の日に開催された。学校が普通時程の中の出張には負担を感じている。東部と西部を交互に行ってもらいたい。

△保健部会は、研究授業のない部会のためおなじような内容であれば、オンライン研修でも可能だと思う。

△協議会を通して、直接お互いの取組を情報交換することができた。提案発表に関する協議の他に今年度は特にコロナ禍だからこそ、養護教諭としての職務の話し合いができる時間があればよいと思った。